

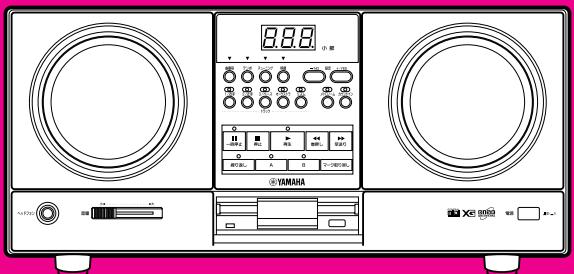
YAMAHA

ミュージック データ プレーヤー

MDP10S

取扱説明書

GENERAL
mIDI XG DISK
ORCHESTRA



安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願い致します。

記号表示について

この機器に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	注意 感電の恐れあり キャビネットをあけるな		注意：感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。 この機器の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。 点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または 巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。
--	-------------------------------------	--	--

△ 記号は、危険、警告または注意を示します。上記の場合、△は機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。また、△は注意が必要なことを示しています。

○ 記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

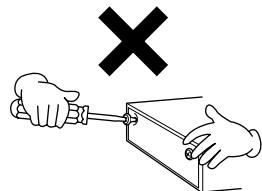
● 記号は、行為を強制したり指示したりすることを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

*お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

！警告

この表示内容を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。

この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。
感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。



浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。
また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。
感電や火災、または故障の原因になります。

電源コード/プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なにおいや煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。
感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



電源は必ず交流100Vを使用する。

エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

！注意

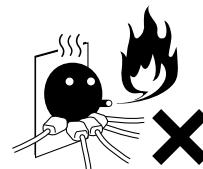
この表示内容を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



タコ足配線をしない。

音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。



電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。

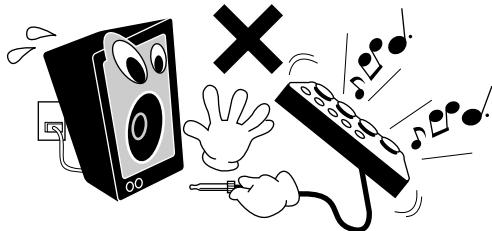


長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電、ショート、発火などの原因になります。

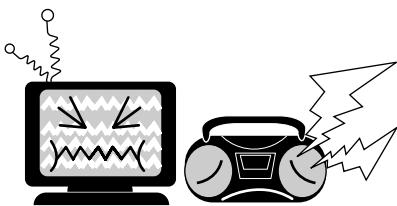
! 他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。さらに、演奏を始める場合も必ず両機器のボリュームを最小(0)にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げていき適切な音量にする。

感電または機器の損傷のおそれがあります。



! 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。
本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。

! テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。
デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



! 不安定な場所に置かない。
機器が転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

! 本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。
コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。

! 本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本体上にビニール製品やプラスチック/ゴム製品などを置かない。
本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。

! 本体の上に乗ったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

! 本体の放熱ファンや放熱用スリットに本などを置いて、ふさがない。
換気が十分でないと、本体内部に熱がこもり、火災が発生するおそれがあります。

! 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。



不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

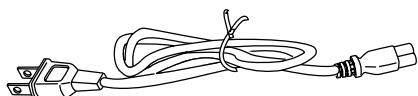
このたびは、ヤマハミュージック データ プレーヤー MDP10Sをお買い求めいただきまして、誠にありがとうございました。

MDP10Sは、GM、XG、DOCなど幅広い種類の別売ディスクソフト(曲データのディスク)を簡単操作で再生できる、スピーカー一体型のミュージック データ プレーヤーです。

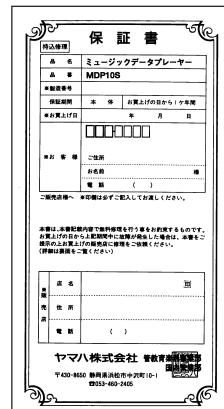
MDP10Sの優れた機能を十分お楽しみいただくために、本書をご活用いただきますようご案内申し上げます。また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してくださいますよう、お願い申し上げます。

付属品 (お確かめください)

電源コード

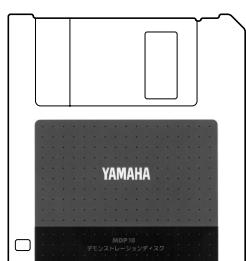


保証書

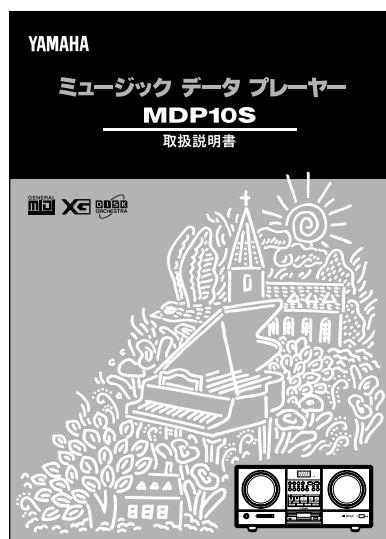


MDP10Sデモンストレーションディスク

MDP10Sで再生できるヤマハの幅広い種類の別売ディスクソフト(曲データのディスク)の中から、いろいろなタイプの12曲を抜粋して収録したデモディスクです。お楽しみください。



取扱説明書(本書)



MDP10Sでこんなことができます

ディスクソフトの再生

「GMソフト」「XGソフト」「DOC(ディスクオーケストラ・コレクション)」などをはじめとする幅広い種類の別売ディスクソフト(曲データのディスク)を簡単操作で再生できます。(P10)



ソフトを再生しながら、ピアノやリコーダー、ピアニカ、管楽器などでアンサンブル演奏

MDP10Sで曲データの伴奏パートだけ再生しながら、メロディパートをピアノやリコーダー、ピアニカ、管楽器などでご自身で演奏して、アンサンブル演奏を楽しむことができます。(P12)



ソフトを使って楽器の練習

・右手パートと左手パートが別々のトラックに入っているピアノ曲などのディスクソフトを使うと、練習したいパートの再生をOFFにして、ピアノやオルガンで片手練習することができます。(P14)



・曲中のフレーズを設定して繰り返し再生できますので、練習したい部分を集中して練習することができます。(P16)



・楽器の練習に便利な「チューニング」(P29)「テンポの調節」(P28)「カウントイン」(P34)「メトロノーム」(P35)機能が付いています。



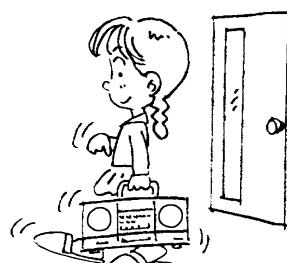
カラオケ

マイク(別売)をつないでカラオケソフトが楽しめます。(P18)
キーの調節もできます。(P37)



スピーカー一体型のラジカセタイプ

ステレオのアンプ/スピーカーを内蔵していますので、本体だけで再生できます。また、手軽に持ち運べるので便利です。



取扱説明書(本書)はこんなふうにお役に立ちます

この本は、「準備」「クイックガイド」「リファレンス編」「付録」の4部構成になっています。

準備 最初にお読みください。

クイックガイド 「クイックガイド」でMDP10Sの主な使い方がおわかりいただけます。
付属のMDP10Sデモンストレーションディスクを使って、再生と、ソフトを使った楽器の練習方法を説明します。簡単な操作でお楽しみいただけますので、ぜひお試しください。

リファレンス編 各機能を詳しく説明しています。より詳しくお知りになりたいときに「リファレンス編」をご覧ください。
欄外コラムの②。マークの説明は、本文の説明どおりにならないなど、おかしいな?と思ったときにご覧ください。

付録 ディスクソフトのご紹介や、必要に応じてご利用いただける資料を掲載しています。

準備

表記上の決まり

ボタンなどの表記

【 】 MDP10S本体のボタン類を示します。この場合、ボタン、スライダー、ジャック(端子)といった言葉は省略します。たとえば、「音量」のスライダーは、文章中で【音量】と表記します。

本書では、以下に示すような矢印を使って操作の結果と手順を区別しています。

○○○⇒☆☆☆

○○○の操作を行った結果、☆☆☆の状態になることを示しています。
(操作の結果を示します。)

○○○➡☆☆☆

○○○の操作を行ったあと、☆☆☆の操作をすることを示しています。
(操作の手順を示します。)

目 次

準 備

安全上のご注意	卷頭
付属品(お確かめください)	2
MDP10Sでこんなことができます	3
取扱説明書(本書)はこんなふうにお役に立ちます	4
フロッピーディスクの取り扱い	6
ご使用前の準備	7

クイックガイド

MDP10Sデモンストレーションディスクの曲目リスト	9
再生してみましょう	10
ソフトを使って楽器の練習をしてみましょう	12
メロディパート(メインパート)を自分で演奏する	12
ピアノやオルガンで片手練習をする	14
繰り返し練習をする	16
カラオケで歌ってみましょう	18

リファレンス編

各部の名前	20
共通操作	22
ディスプレイの見方	22
設定【-/NO】【+/YES】の操作について	23
設定の記憶について	24
再生の基本操作	25
再生の基本手順	25
テンポの調節	28
【巻戻し】【早送り】【一時停止】	28
楽器の練習に便利な機能	29
チューニング	29
オシ/オフ	
トラックごとの再生ON/OFF	31
マークとジャンプ/繰り返し練習	31
カウントイン	34
メトロノーム	35
その他の機能	37
移調	37
ディスクのフォーマット	38
他の機器と接続する端子	40
エラーメッセージ一覧	42
故障かな?と思ったら	43

付 錄

MDP10Sで再生できるディスクソフトについて	44
MDP10Sで再生できる	
ディスクソフトの各種フォーマット	44
MDP10Sで再生できる	
主なヤマハ別売ディスクソフトのご紹介	45
MIDIインプリメンテーションチャート	46
仕様	47
別売品のご紹介	47
索引	48
保証とアフターサービス	49

準
備

ク
イ
ック
ガ
イ
ド

リ
フ
ア
レ
ン
ス
編

付

録

フロッピーディスクの取り扱い

付属の「MDP10Sデモンストレーションディスク」をはじめ、MDP10Sで再生できるディスクは「フロッピーディスク」という種類のディスクです。フロッピーディスクは、扱いかたを間違えると記録したデータを失いかねません。フロッピーディスクとディスクドライブユニットをご愛用いただくために、ご使用時には以下のことをお守りください。

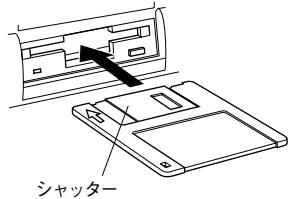
■ フロッピーディスクの種類

- この製品には、「3.5インチ2DDまたは2HDマイクロ フロッピーディスク」をご使用ください。

■ フロッピーディスクの挿入/取り出し

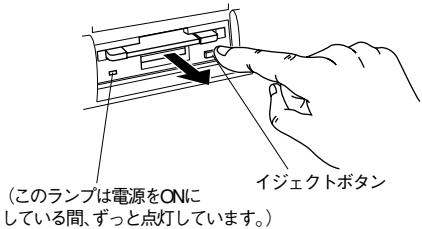
◇ フロッピーディスクの入れかた

- フロッピーディスクのシャッターに文字が書かれている方(表面)を上にして、イラストのように、ディスク挿入口にカチッと音がするまでていねいに差し込みます。



◇ フロッピーディスクをディスク挿入口から取り出すときのご注意

- イジェクトボタンをしっかりと正確に押し、フロッピーディスクが完全に出たことを確認してから取り出してください。



- イジェクトボタンを中途半端に押したり、あわてて押すと、取り出し機構が正常に作動せず、フロッピーディスクが途中で引っかかり取り出せなくなる場合があります。この場合、無理にフロッピーディスクを取り出そうとすると、ディスクがこわれたりディスクドライブユニットが故障したりする原因になります。このような場合は、もう一度イジェクトボタンを押しながら、またはフロッピーディスクをディスク挿入口に完全に押し込んで、もう一度イジェクトボタンをしっかりと正確に押ししながら取り出してください。

◇ フォーマット中や再生中は、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ディスクのデータがこわれるだけでなく、ディスクドライブユニットの故障の原因になります。

◇ 電源を切るときは、フロッピーディスクをあらかじめディスクドライブユニットから取り出してください。電源を切った後、フロッピーディスクを入れたまま長時間放置すると、ディスクが汚れ、データの読み書きにエラーが生じる原因になります。

■ 磁気ヘッドの定期的なクリーニング

- ディスクドライブユニットは、高精度の磁気ヘッドを使用しています。ディスクドライブユニットを長時間使用していくうちに、磁気ヘッドはフロッピーディスクの磁性粉で汚れていきます。磁気ヘッドが汚れると、録音や再生(データの書き込みや読み取り)にエラーが生じることがあります。
- ディスクドライブユニットを良い状態でお使いいただくために、磁気ヘッドを定期的に(1ヶ月に1回程度)クリーニングしていただくことをお勧めします。
- 磁気ヘッドのクリーニングには、市販の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をご使用ください。なお、巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点で、ヤマハ推奨の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をお求めいただぐともできます。

■ フロッピーディスクについてのご注意

◇ フロッピーディスクの取り扱いと保管

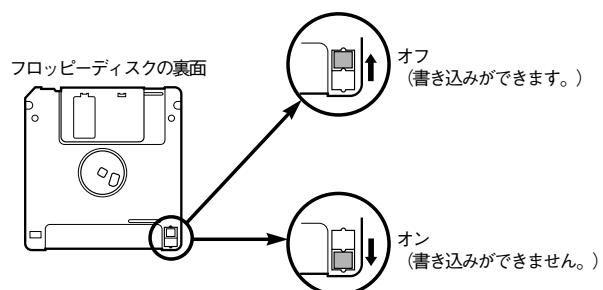
フロッピーディスクの中にはデータを記録する磁性体が入っています。磁性体を保護し、さらにディスクドライブユニットの磁気ヘッドを保護するために、以下の点にご注意ください。

- (持ち運ぶ場合も含めて)必ず市販のケースに入れて保管し、落としたり、物を乗せたり、折り曲げたりしないでください。また、ディスク内部に水やホコリなどが入らないようにしてください。
- ディスクのシャッターを開けて、内部の磁性体に触れないでください。
- 磁気を帯びた物(テレビやスピーカーなど)には近づけないでください。
- 直射日光の当たる場所や、過度に高温/低温の場所、多湿な場所などに置かないでください。
- シャッターやディスク本体が変形しているようなフロッピーディスクは、絶対に使用しないでください。
- フロッピーディスクには、ラベル以外の物(メモなど)を貼らないでください。また、ラベルは所定の位置にはがれないようにしっかりと貼ってください。

◇ 誤消去防止

フロッピーディスクには、誤ってデータを消してしまうことがないように、ライトプロテクトタブが付いています。

大切なデータが入っているディスクは、ライトプロテクトタブをオン(タブの窓が開いた状態)にして書き込みができないようにしてください。



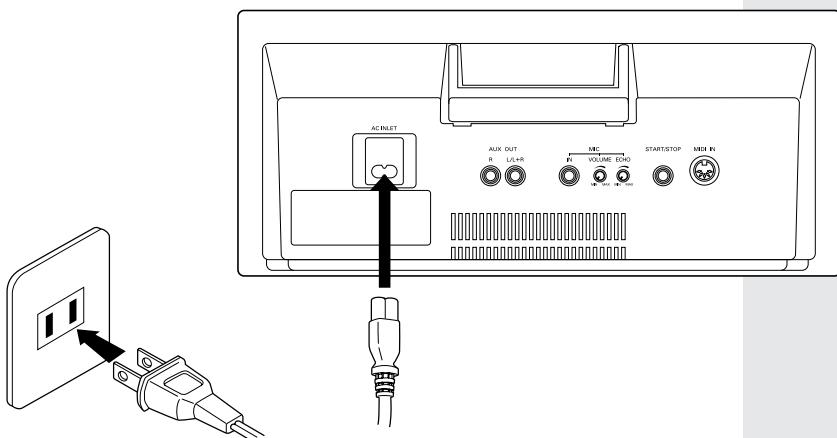
◇ 市販のフロッピーディスクの中には粗悪品もございます。メーカー名をお確かめのうえ、お求めください。

ご使用前の準備

電源を入れる

1 | 電源コードを接続する

電源コードの両端のプラグを、本体リアパネルの【AC INLET】と家庭のコンセント(家庭用AC100V)にそれぞれ差し込みます。



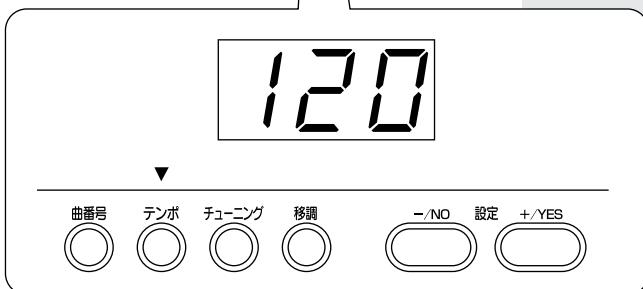
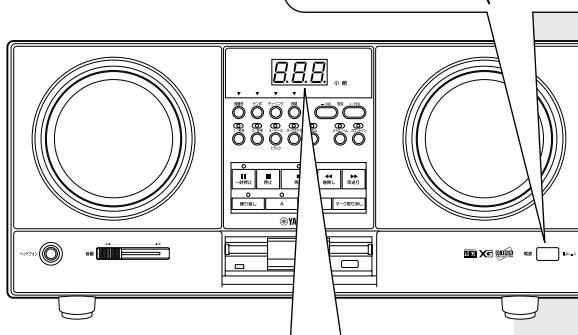
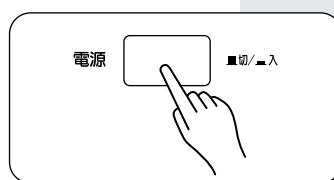
2 | 電源を入れる

【電源】を押します。

⇒ 電源が入ります。ディスプレイに表示が現れます。

電源を切るときは、もう一度【電源】を押します。

⇒ ディスプレイの表示が消えます。

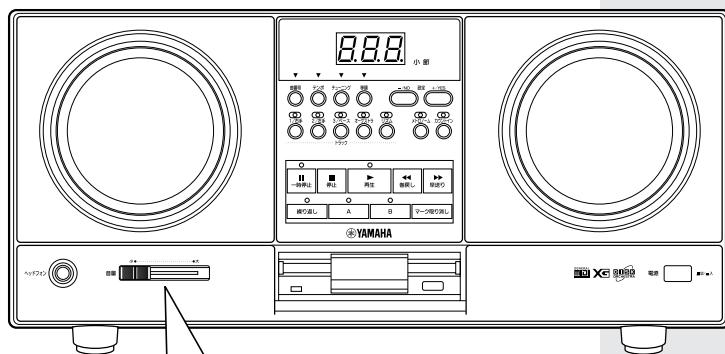


準

備

音量調節

【音量】を左右に動かして調節します。実際に曲を再生しながら、徐々に音量を上げていってください。

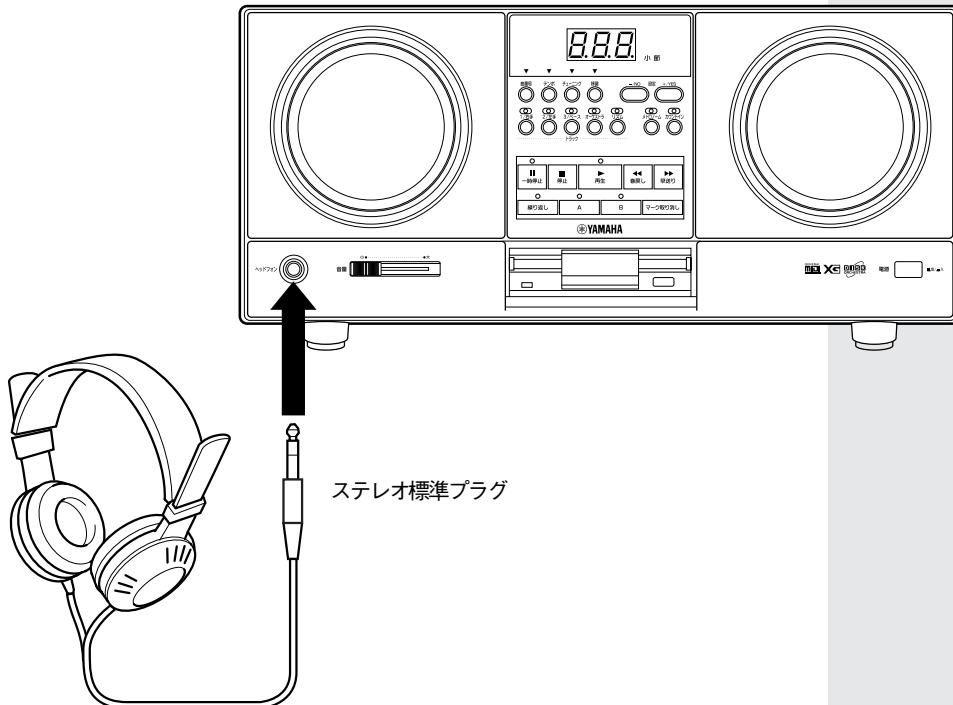


【音量】で【ヘッドフォン】端子やAUX OUT【R】【L/L+R】端子の出力レベルも調節されます。

ヘッドフォンを使う場合

ヘッドフォン(別売)を【ヘッドフォン】端子に接続して使います。
ヘッドフォンを接続するとMDP10Sのスピーカーからは音が出ません。

推奨ヘッドフォン…
YAMAHAヘッドフォンYHE-90Sなど



クイックガイド

「クイックガイド」でMDP10Sの主な使い方がおわかりいただけます。

付属のMDP10Sデモンストレーションディスクを使って、再生と、ソフトを使った楽器の練習方法を説明します。簡単な操作でお楽しみいただけますので、ぜひお試しください。

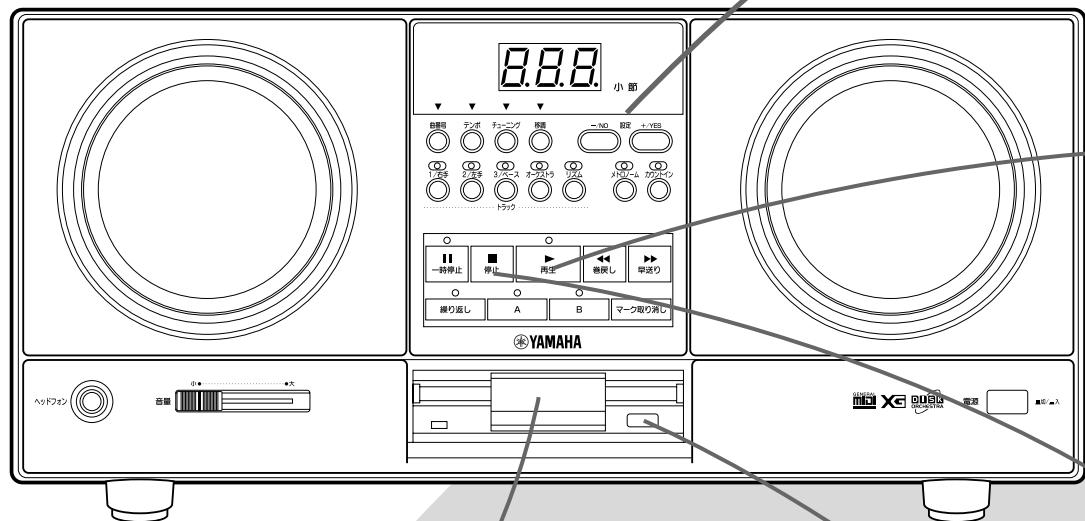
より詳しくお知りになりたいときに「リファレンス編」をご覧ください。

MDP10Sデモンストレーションディスクの曲目リスト (出典元のディスクソフト名/収録タイトルの品番)

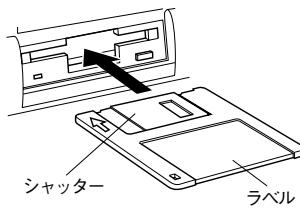
- 1 潟のアデリーヌ(ピアノソフトプラス/MPSP382200)
- 2 となりのトトロ(ピアノソフトプラス/MPSP382180)
- 3 花のワルツ(ピアノソフトプラス/MPSP382080)
- 4 元気を出して(XGソングデータライブラリー/YSD-113)
- 5 LOVE PHANTOM(XGソングデータライブラリー/YSD-210)
- 6 ブルーシャトー(XGソングデータライブラリー/未発売)
- 7 Cジャムブルース(ディスクオーケストラ・コレクションディーオーシー [DOC]/DO211R)
- 8 いとしのエリー(ディスクオーケストラ・コレクションディーオージー [DOC]/DO503D)
- 9 ボサノババイエル(「ピアノアソシエ」ディスクソフト/Vol.1)
- 10 シチリアーノ(「フルートレパートリー」シリーズ)
- 11 アルルの女よりメヌエット(「フルートレパートリー」シリーズ)
- 12 枯葉(「ジャズ・トランペット・スーパーレパートリー」)



再生して
みましょう



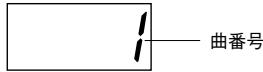
1 MDP10S デモンストレーション ディスクを入れる



ラベルが貼ってある面
を上向き、シャッター側
を奥にして、カチッとき
がするまでていねいに
差し込みましょう。

⇒ ディスプレイが自動的に曲番号表示に切り換わる。

【曲番号】のランプ点灯



2

設定【-/NO】【+/YES】で、再生する曲番号を選ぶ

(【曲番号】のランプが点灯していない場合は【曲番号】を押してから)

「オール」「ALL」を選ぶと……曲順どおりの連続再生。
「ランダム」「rand」を選ぶと……順不同の連続再生。

3

【再生】を押して、再生スタート

⇒ディスプレイが自動的に
小節表示に切り換わる。

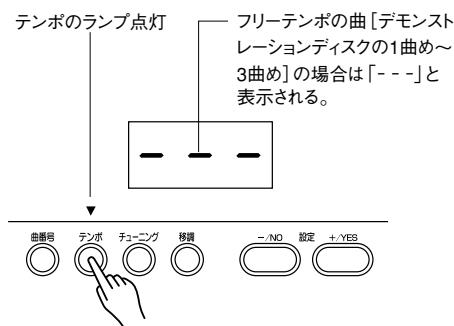
再生の進行に沿って小節番号が進む
(フリーテンポの曲【デモンストレーションディスクの1曲め～3曲め】の場合は単に進行の目安)。



●【音量】で音量を調節する。

● テンポの調節

【テンポ】を押すと、ディスプレイがテンポ表示に切り換わる。



⇒設定【-/NO】【+/YES】でテンポを調節する。

・設定【-/NO】と【+/YES】を同時に押すと、その曲の元のテンポに戻る。

ディスプレイを小節表示に戻す場合

再度【テンポ】を押すと、「小節」のランプが点灯して小節表示に戻る。

● ディスプレイの切り換え

4つのボタン【曲番号】【テンポ】【チューニング】【移調】で切り換える。

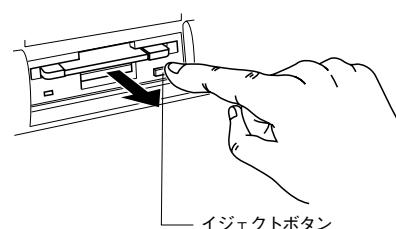
●【巻戻し】【早送り】【一時停止】もできる。

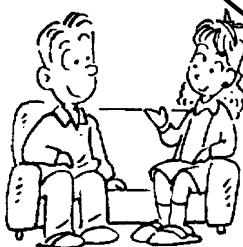
4

【停止】を押して、 再生ストップ

5

ディスクを使い終わったら、 イジェクトボタンを押して ディスクを抜く





ソフトを使って楽器の
練習をしてみましょう

MDP10Sデモンストレーションディスクがディスクドライブに差し込まれていることを確認して、
以下の使い方をお試しください。

使い方によって合わない曲もありますので、お勧め曲を参考にしてください。

メロディパート(メインパート) を自分で演奏する

●お勧め曲:全曲

1 設定【-/NO】【+/YES】で、
曲番号を選ぶ

(【曲番号】のランプが点灯していない場合は
【曲番号】を押してから)

2 メロディパート(メインパート)のボタン
(【1/右手】【2/左手】のどちらか、または両方)
を押して再生をOFFにする

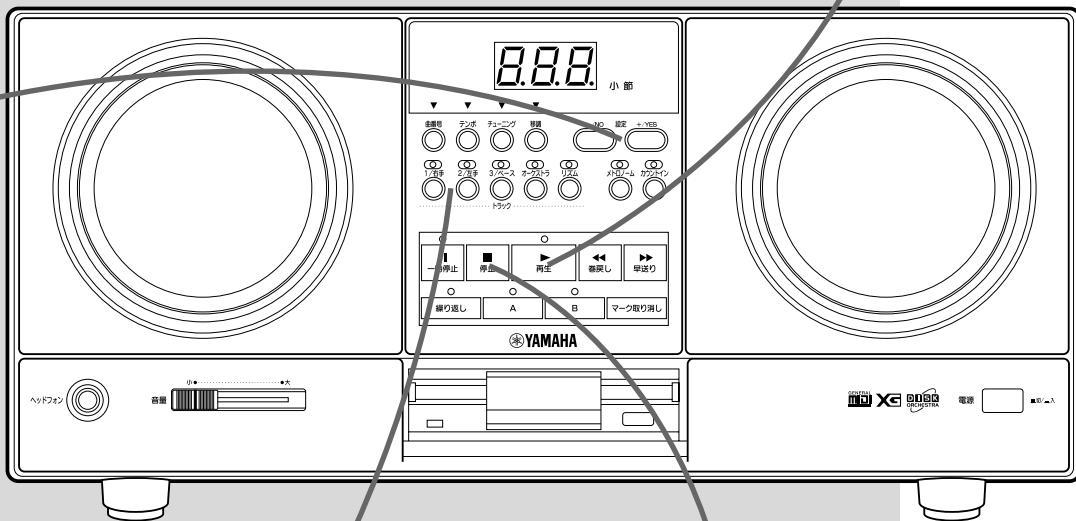
※1、2、7、8、9の曲は両方OFF。3の曲は【2/左手】だけOFF。それ以外の曲は【1/右手】だけOFF。

⇒押したボタンのランプが消灯。
(ボタンを押すごとに再生ON/OFFが切り替わる⇒ランプ点灯/消灯)

3

【再生】を押して、 再生スタート

- ➡ メロディパート(メインパート)をお好きな楽器で演奏してください。
- P11の操作③の方法でテンポの調節もできます。



4

【停止】を押して、 再生ストップ

ノート

再生音と楽器の音程が合わない場合は、「チューニング」(P29)を参照して音程を合わせてください。

ヒント

演奏に先だって、メロディパート(メインパート)だけ再生ONにして、聞いてみることもできます。



ソフトを使って楽器の練習をしてみましょう

ピアノやオルガンで片手練習をする

●お勧め曲:1、2、7、8、9

1 設定【-/NO】【+/YES】で、曲番号を選ぶ

（【曲番号】のランプが点灯していない場合は【曲番号】を押してから）

2 練習したいパートのボタン（【1/右手】【2/左手】のどちらか）を押して再生をOFFにする

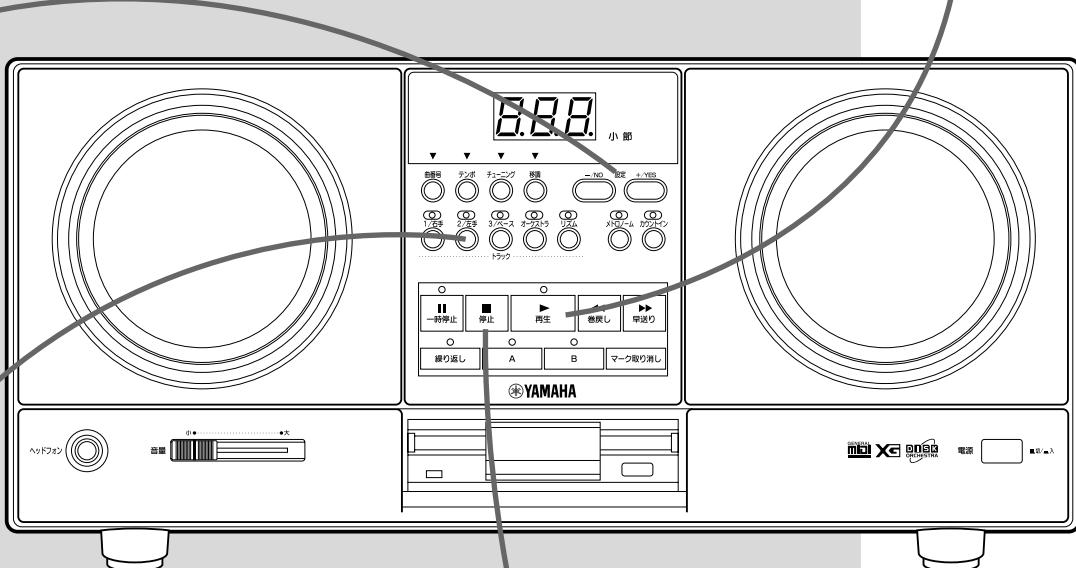
【3/ベース】【オーケストラ】【リズム】のON/OFFは好みで。
⇒押したボタンのランプが消灯。

（ボタンを押すごとに再生ON/OFFが切り替わる⇒ランプ点灯/消灯）

3

【再生】を押して、 再生スタート

➡ 再生をOFFにしたパート
を自分で弾いて練習して
ください。



4

【停止】を押して、 再生ストップ

ノート

再生音と楽器の音程が合わない
場合は、「チューニング」(P29)
を参照して音程を合わせてください。

ヒント

練習に先だって、練習したいパートだけ再生ONにして、聞いて
みることもできます。



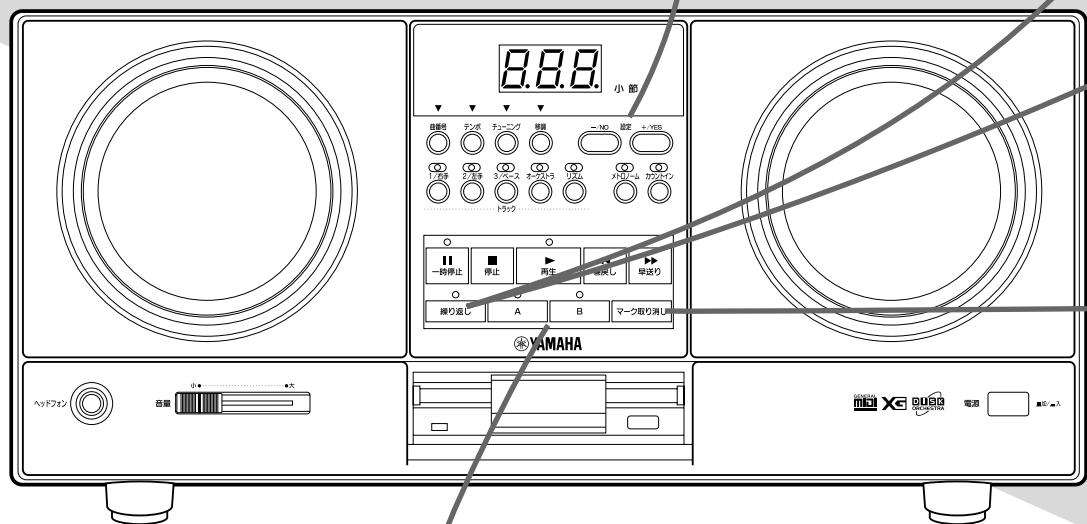
ソフトを使って楽器の練習をしてみましょう

繰り返し練習をする

●お勧め曲:全曲

1 設定【-/NO】【+/YES】で、曲番号を選択する(「ALL」「Rand」以外)

(【曲番号】のランプが点灯していない場合は【曲番号】を押してから)



2 曲を再生しながら、繰り返しを始める位置で【A】を、繰り返しを終わる位置で【B】を押す

⇒ 【A】【B】のランプ点灯。

3

【繰り返し】を押して、繰り返し再生スタート

- ⇒ 【繰り返し】のランプ点灯
- ⇒ 練習したいパートの再生をOFFにして、お好きな楽器で繰り返し練習をしてください。
その後、通常の再生、停止操作で繰り返し再生をスタート/ストップできます。

4

終わったら【繰り返し】を再度押して、繰り返し再生を解除

- ⇒ 【繰り返し】のランプが消灯し、繰り返しが解除されます。

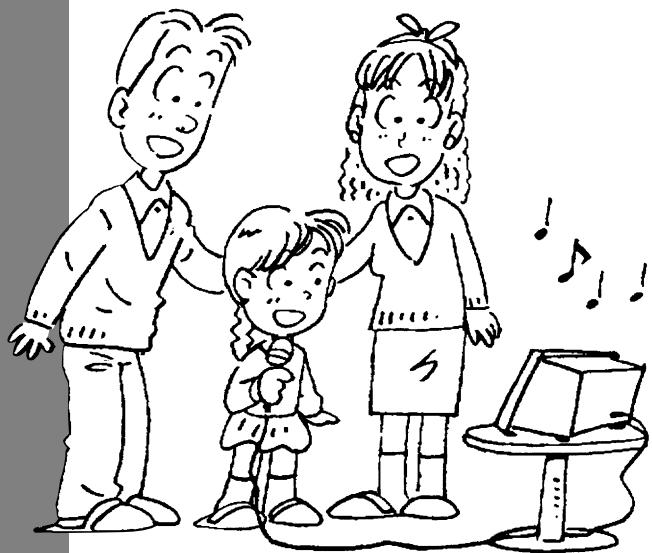
5

【マーク取り消し】を押してマークを解除

- ⇒ [A] [B] のランプ消灯。

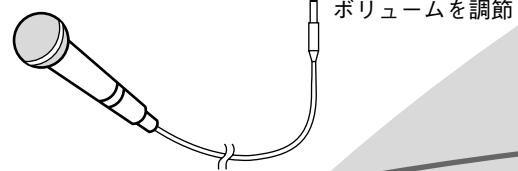
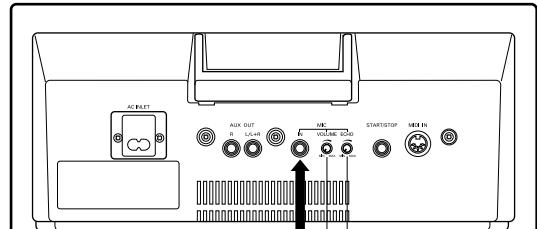
ノート

再生音と楽器の音程が合わない場合は、「チューニング」(P29)を参照して音程を合わせてください。



カラオケで歌って
みましょう

マイクをお持ちの方はマイクを接続し、マイクの
ボリュームとエコーを調節してください



カラオケで歌う

●お勧め曲:2、4、5、6、8

- 1** 設定【-/NO】【+/YES】で、
曲番号を選ぶ

(【曲番号】のランプが点灯していない場合
は【曲番号】を押してから)

- 2** メロディパートのボタンを押して再生を
OFFにする

お勧め曲では【1/右手】だけOFF。

⇒押したボタンのランプが消灯。

(ボタンを押すごとに再生ON/OFFが切り替わる⇒ランプ点灯/消灯)

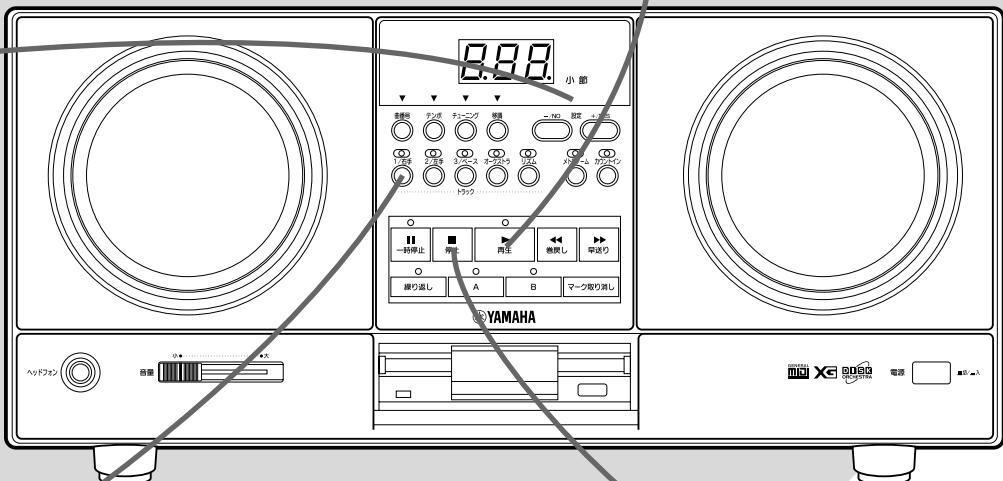
ヒント

歌いやすいキーに変えることができます。

- ①【移調】を押す。
- ②設定【-/NO】【+/YES】でキーを上下する。
- ③再度【移調】を押して終了。

3 【再生】を押して、再生スタート

➡ 再生に合わせて歌ってください。



4 【停止】を押して、 再生ストップ

いかがでしたか？

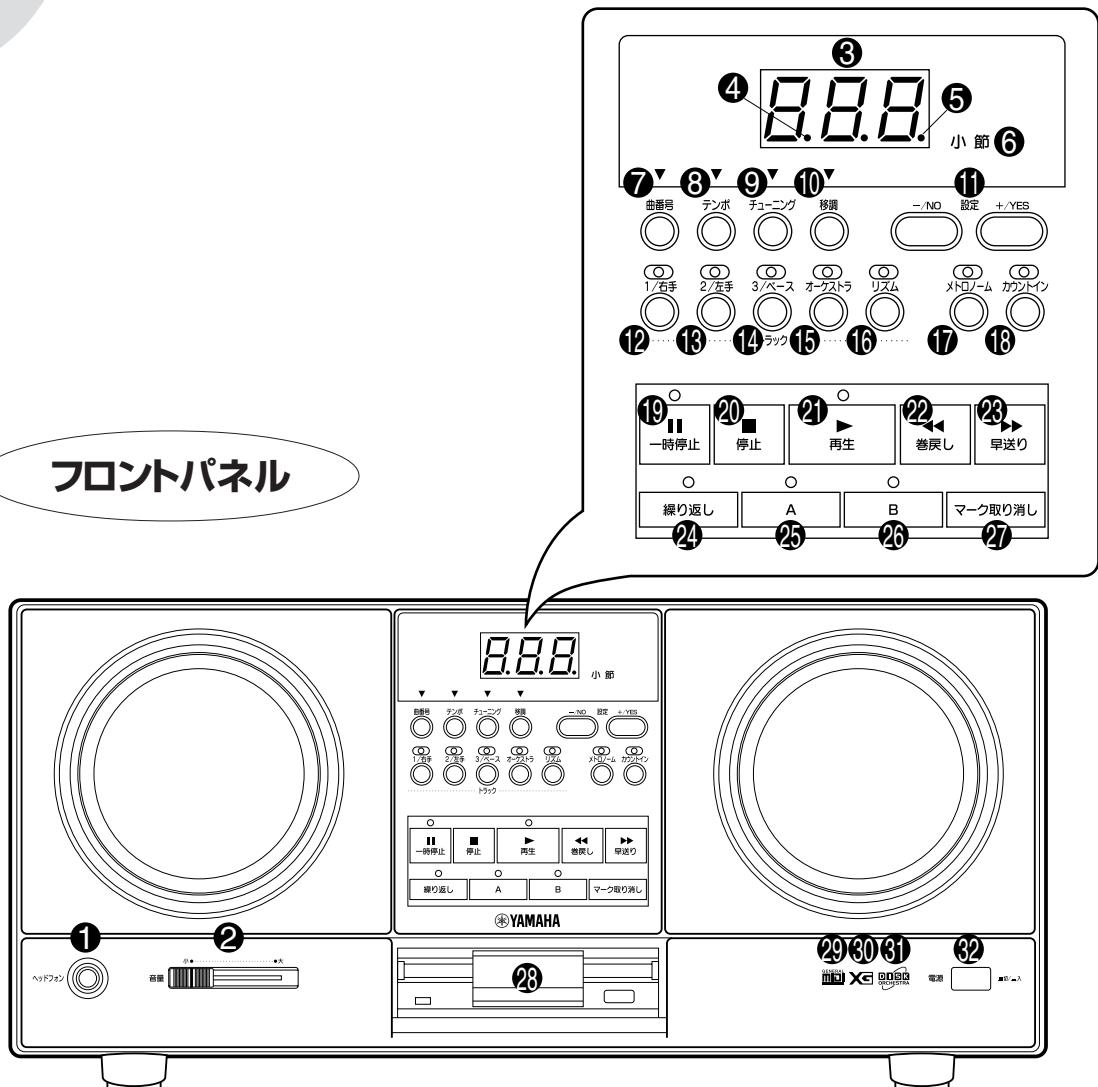
それでは、お好きなディスクソフトでご自由にお楽しみください。

そのほか、楽器の練習に便利な、「カウントイン」(P34)、「メトロノーム」(P35)もご利用ください。

リファレンス編

各機能を詳しく説明しています。より詳しくお知りになりたいときに「リファレンス編」をご覧ください。欄外コラムの②マークの説明は、本文の説明どおりにならないなど、おかしいな?と思ったときにご覧ください。

各部の名前





「GM(ジェネラルMIDI)規格」のマークです。MDP10Sが「GM(ジェネラルMIDI)規格」準拠のディスクソフトを再生できることを示しています。「GM規格」についての説明はP44をご参照ください。



「XGフォーマット」のマークです。MDP10Sが「XGフォーマット」準拠のディスクソフトを再生できることを示しています。「XGフォーマット」についての説明はP44をご参照ください。



「DISK ORCHESTRA(ディスクオーケストラ)」のマークです。MDP10Sが「DOC(ディスクオーケストラ・コレクション)」のディスクを再生できることを示しています。「DOC(ディスクオーケストラ・コレクション)」についての説明はP44をご参照ください。

●「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。

フロントパネル

- ① 【ヘッドフォン】 P8
- ② 【音量】 P8
- ③ ディスプレイ P22
- ④ 再生準備中ランプ P24
- ⑤ 拍子ランプ P28
- ⑥ 「小節」ランプ P22
- ⑦ 【曲番号】 P25
- ⑧ 【テンポ】 P28
- ⑨ 【チューニング】 P29
- ⑩ 【移調】 P37
- ⑪ 設定【-/NO】【+/YES】 P23
- ⑫ 【1/右手】 P31
- ⑬ 【2/左手】 P31

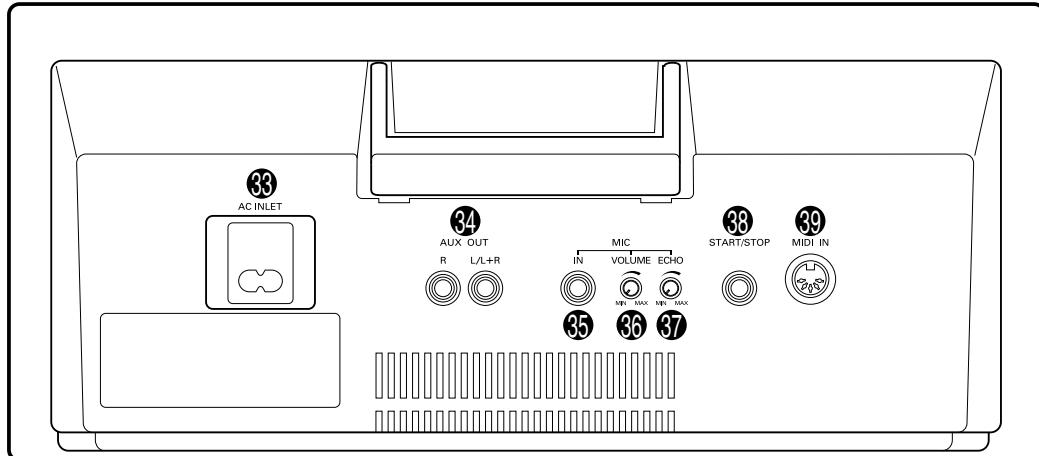
- ⑭ 【3/ベース】 P31
- ⑮ 【オーケストラ】 P31
- ⑯ 【リズム】 P31
- ⑰ 【メトロノーム】 P35
- ⑱ 【カウントイン】 P34
- ⑲ 【一時停止】 P28
- ⑳ 【停止】 P27
- ㉑ 【再生】 P26
- ㉒ 【巻戻し】 P28
- ㉓ 【早送り】 P28
- ㉔ 【繰り返し】 P33
- ㉕ 【A】 P32
- ㉖ 【B】 P32
- ㉗ 【マーク取り消し】 P32
- ㉘ ディスクドライブユニット P6

- ㉙ 「GM(ジェネラルMIDI)規格」のマーク 上記
- ㉚ 「XGフォーマット」のマーク 上記
- ㉛ 「DISK ORCHESTRA(ディスクオーケストラ)」のマーク 上記
- ㉜ 【電源】 P7

リアパネル

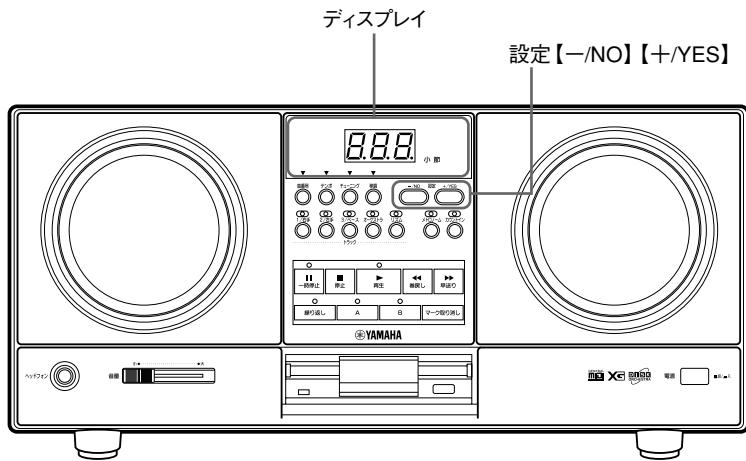
- エーサー インレット
㉜ 【AC INLET】 P7
- ㉝ AUX OUT【R】[L/L+R] イン
㉞ MIC【IN】 P41
- ㉞ MIC【VOLUME】 P41
- ㉞ MIC【ECHO】 P41
- ㉞ 【START/STOP】 P35
- ㉞ 【MIDI IN】 P41

リアパネル



共通操作

MDP10Sを操作する上での共通事項を説明します。

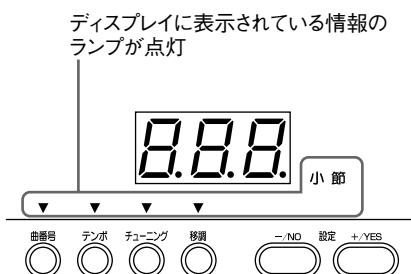


ディスプレイの見方

MDP10Sのディスプレイは、通常下記の情報のうち1つを表示します。

- ・現在の小節数
- ・選ばれている曲番号
- ・現在のテンポ値
- ・現在のチューニング値
- ・現在の移調の状態

今どの情報が表示されているかは、「小節」「曲番号」「テンポ」「チューニング」「移調」のランプで知ることができます。ランプが点灯している情報が今表示されている情報です。



■ディスプレイの切り換え■

4つのボタン【曲番号】【テンポ】【チューニング】【移調】で切り換えます。
ディスクソフトがディスクドライブに差し込まれているときと差し込まれていないときで、
下記のように操作が異なります。

ディスクソフトが差し込まれているとき

- ・ボタンの1つを押すとランプが点灯し、その表示に切り換わります。
- ・別のボタンを押すと、押したボタンの表示に切り換わります。
- ・ランプが点灯しているボタンを再度押すと、そのボタンのランプは消灯し、「小節」のランプが点灯して、小節表示に切り換わります。
- ・ディスクを差し込んだときには自動的に曲番号表示に切り換わります。
- ・再生がスタートしたときには自動的に小節表示に切り換わります。再生中にディスプレイの切り換え操作を行わなかった場合、再生がストップしたときには自動的に再生前の表示に戻ります。

ディスクソフトが差し込まれていないとき

- ・ボタンの1つを押すとランプが点灯し、その表示に切り換わります。ただし、【曲番号】は無効で、押しても曲番号表示にはなりません。
- ・別のボタンを押すと、押したボタンの表示に切り換わります。ただし、【曲番号】は無効で、押しても曲番号表示にはなりません。
- ・ランプが点灯しているボタンを再度押すと、そのボタンのランプは消灯し、【テンポ】のランプが点灯して、テンポ表示に切り換わります。(ランプが点灯しているボタンが【テンポ】の場合は、再度押してもテンポ表示のままとなります。)
- ・ディスクを抜いたときには自動的にテンポ表示に切り換わります。

■電源を入れたときの表示■

電源を入れたときは、テンポ表示になります。(ただし、電源を入れたときディスクソフトが差し込まれていた場合は、曲番号表示になります。)

各種の設定操作中は…
設定値の表示になります。

設定【-/NO】【+/YES】の操作について

設定【-/NO】【+/YES】は各種の設定操作に使われます。
どの場合でも共通して、次の2つの操作を覚えておくと便利です。

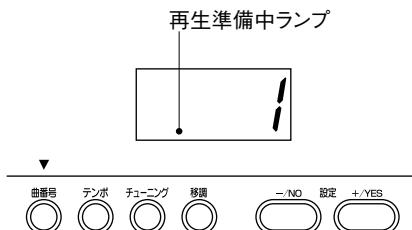
- ・押し続けると連続して値が変わります。(ただし、最大値/最小値に達すると止まる場合と、止まらずに循環する場合があります。)
- ・設定【-/NO】と【+/YES】を同時に押すと、基本設定(工場出荷時の設定)に戻ります。

設定の記憶について

「チューニング」(P30)と「メトロノーム音量」(P36)の設定値は、電源を切っても記憶されていて、次回電源を入れたときにも前回の設定値が有効になります。(それ以外の設定値は、電源を切ると消えますので、電源を入れたときには常に基本設定[工場出荷時の設定]になります。)

ノート 再生準備中ランプについて…

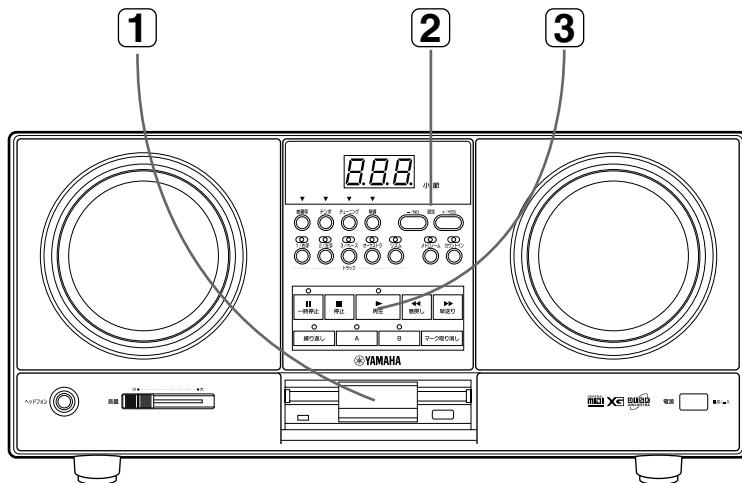
ディスクを差し込んだときや曲を選んだときなどの操作中、再生準備中ランプ(ディスプレイの左下端のランプ[イラスト参照])が多少の時間点灯することがあります。このときはMDP10Sが再生準備中で、次の操作スイッチを押しても効かないことがあります。このランプが消灯してから次の操作をしてください。尚、このときはディスクを抜かないでください。MDP10Sの故障の原因になる場合があります。



再生の基本操作

ディスクソフトを再生する基本操作を説明します。

再生の基本手順

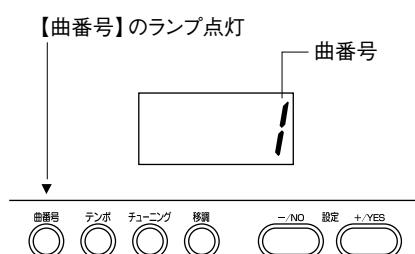
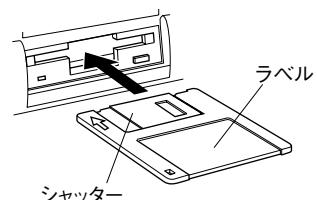


1 ディスクを入れる

再生したいディスクソフトをディスクドライブに差し込みます。

ラベルが貼ってある面を上向き、シャッター側を奥にして、カチッと音がするまで
ていねいに差し込んでください。

⇒ 【曲番号】のランプが点灯し、ディスプレイが自動的に曲番号表示に切り換わります。(通常は1曲め「1」が表示されます。)



②。他の曲番号になることもあります…

1曲めに曲データがない場合は
他の曲番号になります。

②。曲番号でなく「---」と表示されることもあります…

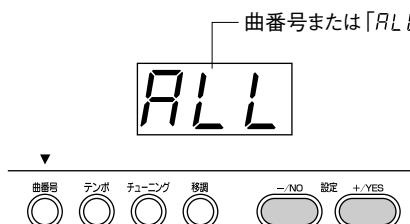
曲データがまったく入っていないディスクが差し込まれた場合は「---」と表示されます。このディスクは抜き、曲データのあるディスクを用意してください。

2 曲を選ぶ

設定【-/NO】【+/YES】を押して、再生する曲番号、または「オール」「ランダム」を選びます。

(ディスプレイが曲番号表示になっていないとき【曲番号】のランプが点灯していないとき)は、【曲番号】を押してディスプレイを曲番号表示に切り換えてから行ってください。)

⇒ 選ばれた曲番号、または「オール」「ランダム」がディスプレイに表示されます。



「オール」「ランダム」を選ぶと …… 全曲が曲順どおりに連続再生されます。
「ランダム」を選ぶと …… 全曲が順不同に連続再生されます。

② 曲の数より曲番号が増えることもあります…

1つの曲について複数のファイルを持っているディスクソフトでは、ファイル数の合計分だけ、曲番号が表示されます。

③ 曲番号を選んでいるとき番号がとびとびに表示されることもあります…

曲データのない番号はとばされて表示されます。(曲データのある番号だけ表示されます。)

選んだ曲からスタートする連続再生…

選んだ曲からスタートして連続再生させる方法もあります:

スタートする曲番号を選び、【曲番号】を押したまま【再生】を押して再生スタートします。

1曲だけの繰り返し再生…

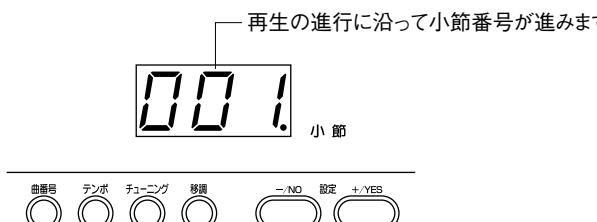
選んでいる1曲だけを繰り返し再生させる方法もあります:

「オール」「ランダム」以外のとき、【繰り返し】を押してランプを点灯させます。再度【繰り返し】を押すとランプが消灯し、繰り返しが解除されます。(A点もB点も設定されていない場合(P33)に限ります。)

3 再生スタート

【再生】を押します。

⇒ 再生がスタートし、ディスプレイが自動的に小節表示に切り換わります。
('小節'のランプが点灯します。)



（ノート）再生中はディスクを取り出さないでください。

音量の調節

【音量】で調節します。

フットスイッチによるスタート/ストップ…

別売のフットスイッチ FC5 を使って再生をスタート/ストップすることもできます。(P35)

② ディスプレイの小節番号が実際の曲の小節番号と一致しないこともあります…

フリーテンポの曲(一定のテンポが設定されていない曲)の場合は、小節番号は実際の曲の小節番号とは一致せず、単に曲の進行を示す目安となります。

フリーテンポの曲…

デモンストレーションディスクの1曲め～3曲めはフリーテンポの曲です。

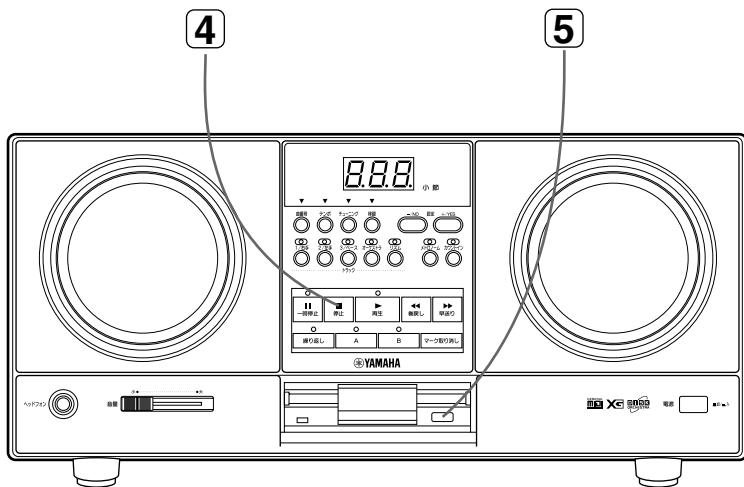
「小学校音楽教科書伴奏集(ESEQ/DOCディスク)」は、フリーテンポのディスクソフトです。

再生中に【曲番号】を押すと…

【曲番号】のランプが点灯し、ディスプレイが曲番号表示に切り換わります。「オール」「ランダム」の場合は、現在再生中の曲番号が表示されます。

ただし再生中は、設定【-/NO】【+/YES】を押しても曲番号は変えられません。

再度【曲番号】を押すと、【曲番号】のランプは消灯し、「小節」のランプが点灯して、小節表示に戻ります。



4 再生ストップ[°]

【停止】を押します。

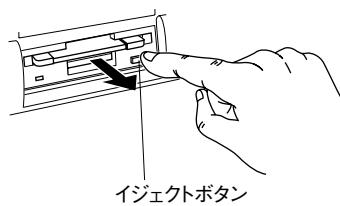
⇒ 再生がストップし、再生位置が自動的に曲の先頭に戻ります。
 (「RLL」「rnd」以外で曲が最後まで再生された場合は自動的にストップします。)

フットスイッチによるスタート/ストップ…

別売のフットスイッチ FC5 を使って再生をスタート/ストップすることもできます。(P35)

5 ディスクを抜く

ディスクを使い終わったら、イジェクトボタンを押してディスクを抜きます。

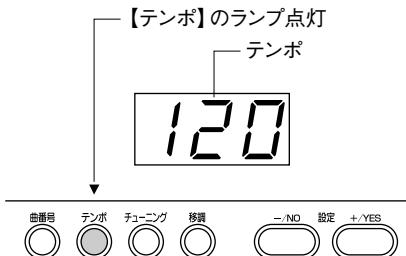


テンポの調節

【テンポ】を押します。

⇒ 【テンポ】のランプが点灯し、ディスプレイがテンポ表示に切り換わります。

⇒ 設定【-/NO】【+/YES】でテンポを調節します。(押し続けると、テンポが連続して変わります。)



設定範囲:32~280(数値は1分間の拍数を示します。)

- ・ 設定【-/NO】と【+/YES】を同時に押すと、その曲の元のテンポ(設定されているテンポ)に戻ります。

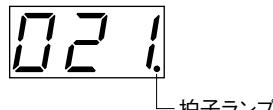
ディスプレイを小節表示に戻す場合

再度【テンポ】を押すと、【テンポ】のランプは消灯し、「小節」のランプが点灯して、小節表示に戻ります。

その他ディスプレイの切り換えについては「ディスプレイの切り換え」(P23)をご覧ください。

拍子ランプについて

再生中、拍子ランプ(ディスプレイの右下端のランプ[イラスト参照])がそのときのテンポに合わせて点滅します。



②。テンポが「---」と表示されることもあります…

フリーテンポの曲(一定のテンポが設定されていない曲)の場合は、テンポは「---」と表示されます。

②。テンポを調節しても「---」と表示されることもあります…

フリーテンポの曲(一定のテンポが設定されていない曲)の場合は、テンポを調節しても表示は「---」のままとなります。

テンポのリセット…

新しい曲を選ぶと(または、「オールランプ」「パート」で新しい曲がスタートすると)その曲に設定されているテンポに自動的にリセットされます。

ディスクが差し込まれていない場合のテンポ…

設定【-/NO】と【+/YES】を同時に押すと、テンポ120(=基本設定)に戻ります。

②。拍子ランプが点滅しないこともあります…

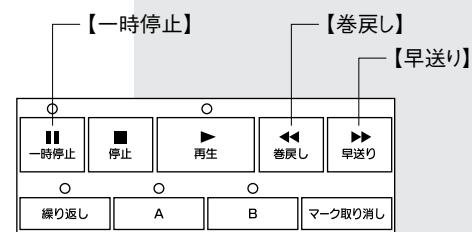
フリーテンポの曲(一定のテンポが設定されていない曲)の場合は、拍子ランプは点滅しません。

【巻戻し】【早送り】【一時停止】

・【巻戻し】: 【巻戻し】を押すと、小節単位で曲が巻き戻ります。押し続けると連続して巻き戻ります。(再生音は聞こえません。)

・【早送り】: 再生中は、【早送り】を押している間曲が早送りされます。(再生音が聞こえます)
停止中、一時停止中は、【早送り】を押すと小節単位で曲が早送りされます。押し続けると連続して早送りされます。(再生音は聞こえません。)

・【一時停止】: 再生中に【一時停止】を押すと、再生が一時的に止まります。再度【一時停止】を押すか【再生】を押すと、再び再生が始まります。



【巻戻し】【早送り】を押すと…

ディスプレイは自動的に小節表示に切り換わります。

楽器の練習に便利な機能

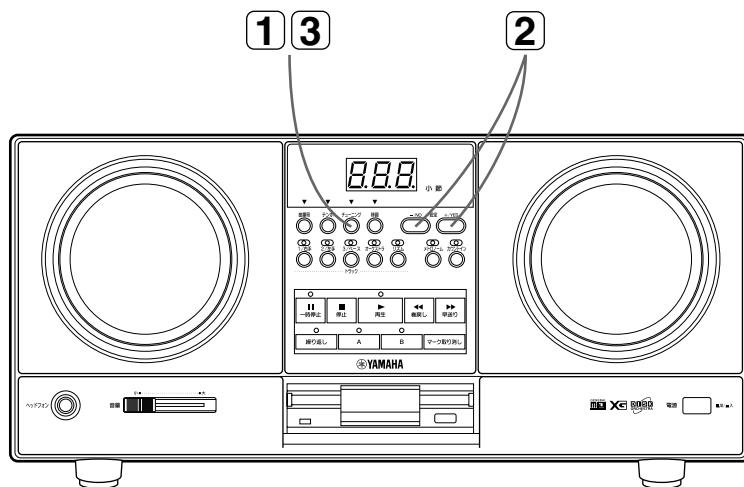
曲に合わせて楽器の練習をするときに便利な機能を説明します。

チューニング

再生音の音程を微調整することができます。

再生音の音程を、演奏する楽器の音程に正確に合わせたいときに使います。

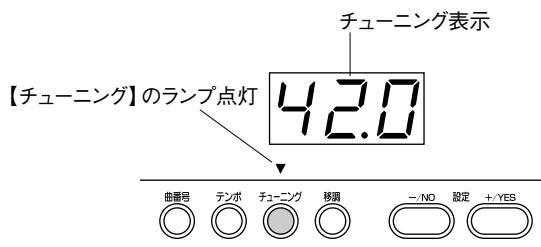
また、管楽器や弦楽器などの場合は、基準音を鳴らして楽器をチューニングすることもできます。



1 【チューニング】を押す

【チューニング】を押します。

- ⇒ 再生停止中は自動的にA3の音程(ピアノでは中央の「ラ」の音)が基準音として鳴ります。(再生中は鳴りません。)
また、【チューニング】のランプが点灯し、ディスプレイがチューニング表示に切り換わります。



ノート チューニング表示の見方…

A3の音程のHz(ヘルツ)の数値が、442.0の場合「42.0」(100の位は省略)のように表示されます。

②。チューニング中は再生スタートできません…

チューニング中(【チューニング】のランプが点灯中)は、【再生】【繰り返し】[A][B]のボタンは効きません。

チューニングを終了してから(【チューニング】を押してランプを消灯させてから)操作してください。

基準音について…

- 基準音を止めたい場合は【停止】を押します。

- 再度鳴らしたい場合は、いったん【チューニング】を押してチューニングを終了し、もう一度【チューニング】を押します。

- 基準音は移調の設定(P37)には影響されません。

Hz(ヘルツ)とは…

音の高さを示す単位です。(音の高さは音波の振動数によって決まります。1秒間に音波が何回振動するかという数値の単位がHz(ヘルツ)です。)

基準音の音程を変更したい場合

楽器のチューニングをするとき、基準音の音程を変更することもできます。

基準音が鳴っているときに【巻戻し】【早送り】で変更します。【巻戻し】を押すと基準音が半音ずつ下がり、【早送り】を押すと半音ずつ上がります。

設定範囲: A2 [=A3の1オクターブ下]～A4 [=A3の1オクターブ上](半音単位、A3が基本設定)

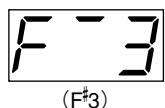
⇒ ディスプレイに基準音の音程が表示されます。

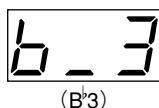
・【巻戻し】と【早送り】を同時に押すと、基本設定(A3)に戻ります。

(ノート) 基準音の音程表示の見方…

「♯」と「♭」はそれぞれ「-」と「_」で示されます。

たとえば「F♯3」は「F-3」、「B♭3」は「b_3」と示されます。


(F♯3)


(B♭3)

2 チューニング値を設定する

設定【-/NO】【+/YES】で設定します。

設定範囲: (A3=)415.2(Hz)～466.2(Hz)(0.2Hz単位、442.0が基本設定)

⇒ ディスプレイに設定値がA3の音程のHz(ヘルツ)の数値(100の位は省略)で表示されます。

 ~ 

3 再度【チューニング】を押して終了

再度【チューニング】を押して終了します。

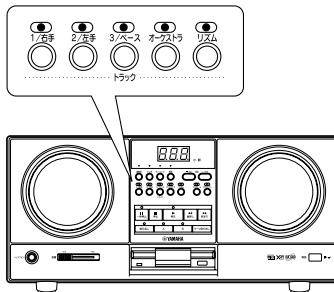
⇒ 【チューニング】のランプが消灯し、ディスプレイがテンポ表示(再生停止中)、または小節表示(再生中)に戻ります。

チューニングの設定の記憶…

チューニングの設定は電源を切っても記憶されています。(基準音の設定は記憶されません。) (「設定の記憶について」P24)

オン/オフ トラックごとの再生ON/OFF

曲を選ぶと、その曲のデータが入っているトラック（【1/右手】【2/左手】【3/ベース】【オーケストラ】【リズム】）のランプが点灯します。



ランプが点灯しているトラックのボタンを押すと、ランプが消灯し、そのトラックのデータの再生がOFFになります。ボタンを押すごとに再生ON/OFFが切り替ります。

新しい曲を選ぶと（または、「**オールランダム**」で新しい曲がスタートすると）ON/OFFの設定はリセットされて、データが入っているすべてのトラックのランプが点灯します。

主な使い方

・聞きたいパートのトラックだけ再生

・ピアノやリコーダー、ピアニカ、管楽器などでアンサンブル演奏

メロディパート（メインパート）のトラックを再生OFFし、伴奏パートだけ再生しながら、メロディパートをピアノやリコーダー、ピアニカ、管楽器などでご自身で演奏して、アンサンブル演奏を楽しむことができます。

・ピアノやオルガンで片手練習

右手パートと左手パートが別々のトラックに入っているピアノ曲などのディスクソフトでは、練習したいパートの再生をOFFにして、（もう1つのパートを再生しながら）ピアノやオルガンで片手練習することができます。

マークとジャンプ/繰り返し再生

曲中のポイント（A点、B点の2箇所）を設定（マーク）して、再生開始位置をそのポイントへ飛ばしたり（ジャンプ）、A点とB点の間を繰り返し再生しながら楽器の練習をすることができます。

（ノート）「マークとジャンプ/繰り返し再生」機能が使えないこともあります…

「**オールランダム**」のときは「マークとジャンプ/繰り返し再生」機能は使えません。

②。トラックのランプの点灯のしかたについて…

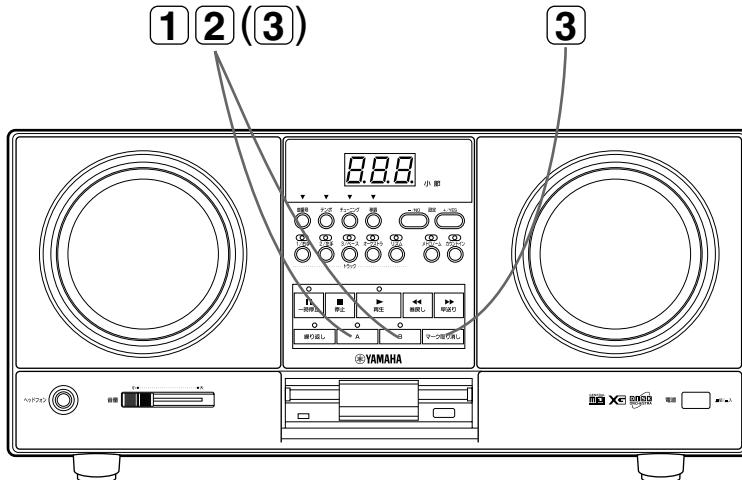
・曲データにより、音のデータが入っていないくとも、曲をコントロールするデータなどが入っているため、トラックのランプが点灯する場合もあります。

・曲データにより、データのあるなしに関わらず、全トラックのランプが点灯する場合もあります。

②。どのパートがどのトラックに入っているかは曲データにより異なります…

・曲データにより、右手パートと左手パートが1つのトラックに入っていたり、メロディパートやベースパートが【オーケストラ】トラックに入っている場合もあります。

マークとジャンプ



1 マーク(A点、B点の設定)

曲を再生しながら、A点にしたいポイントで【A】を、B点にしたいポイントで【B】を押します。
(ジャンプしたいポイントが1箇所であればA点かB点のどちらかだけでけっこうです。)

⇒ 押したボタン【A】、【B】のランプが点灯し、それぞれ設定されたことを示します。

ヒント 小節の区切りでマークする便利な方法…

停止中や一時停止中に【早送り】と【巻戻し】を使ってマークしたい小節のところで止めます。

➡ 【A】または【B】を押します。

⇒ 【A】または【B】がその小節の先頭(その小節と前の小節との境め)にマークされます。

② A点またはB点が設定できないこともあります…

A点、B点の位置関係は、A点が前、B点が後と決まっています。したがって、A点より前にB点を(B点より後にA点を)設定することはできません。

2 ジャンプ

A点、B点を設定後(【A】、【B】のランプが点灯)、【A】を押すとA点へ、【B】を押すとB点へ、再生開始位置がジャンプします。

・再生中にジャンプすると、ジャンプしたポイントへ移って再生が続きます。停止中や一時停止中にジャンプするとジャンプしたポイントへ移って停止中や一時停止中のままとなります。

3 マークの解除

【マーク取り消し】を押すと、A点、B点共、設定が解除されます。

【マーク取り消し】を押したまま【A】を押すと、A点の設定だけが解除されます。

【マーク取り消し】を押したまま【B】を押すと、B点の設定だけが解除されます。

⇒ 【A】、【B】のランプが消灯します。

カウント音…

ジャンプしたポイントから再生がスタートするとき、自動的にカウント音が入ります(フリーテンポの曲[一定のテンポが設定されていない曲]を除く)。

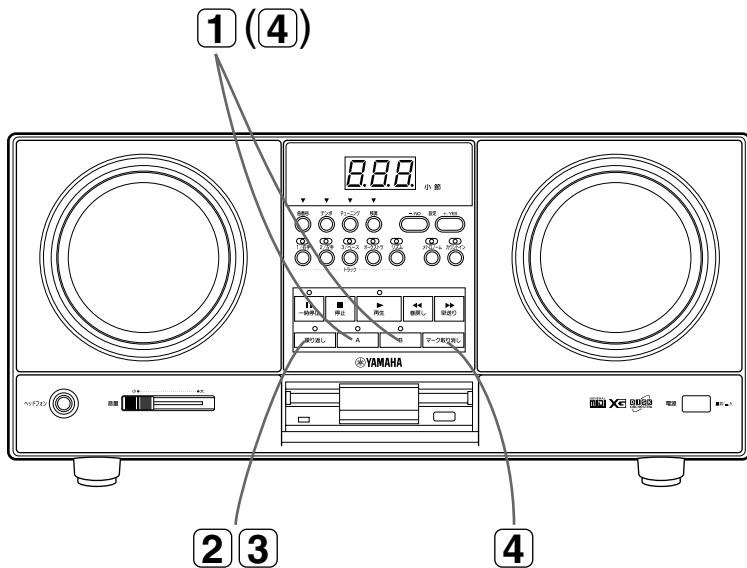
【カウントイン】がONになっていた場合はカウントイン(P34)が入ります(フリーテンポの曲[一定のテンポが設定されていない曲]を除く)。

カウント音やカウントインの音量は、メトロノーム音量(P36)に連動します。

新しい曲を選ぶと…

自動的に、A点、B点共、設定が解除されます。

マークと繰り返し再生



1 マーク(A点、B点の設定)

P32(「マークとジャンプ」の項目)の操作で設定します。繰り返しの始まりをA点に、繰り返しの終わりをB点に設定します。

ノート A点とB点の設定のしかたについて…

- ・ A点だけ設定した場合…
A点から曲の終わりまでが繰り返し範囲となります。
- ・ B点だけ設定した場合…
曲の始まりからB点までが繰り返し範囲となります。
- ・ A点もB点も設定しなかった場合…
選ばれている1曲全体が繰り返し範囲となります。

ヒント 小節の区切りめでマークする便利な方法(例:9~12小節の場合)…

停止中や一時停止中に【早送り】と【巻戻し】を使って繰り返しの始まりの小節(9/9)のところで止め、【A】を押します。

同様の方法で、繰り返しの終わりの次の小節(10/13)のところで止め、【B】を押します。

2 繰り返し再生のスタート/ストップ

【繰り返し】を押します。

⇒ 【繰り返し】のランプが点灯します。

その後、通常の再生、停止操作で繰り返し再生のスタート/ストップができます。

カウント音…

繰り返し再生がスタートするとき、自動的にカウント音が入ります(フリーテンポの曲[一定のテンポが設定されていない曲]を除く)。ただし、繰り返しの始まりが曲頭の場合は、カウント音は入ません。

【カウントイン】が^{オン}になっていた場合はカウントイン(P34)が入ります(フリーテンポの曲[一定のテンポが設定されていない曲]を除く)。

カウント音やカウントインの音量は、メトロノーム音量(P36)に連動します。

3 繰り返し再生の解除

【繰り返し】を再度押します。

⇒ 【繰り返し】のランプが消灯し、繰り返しが解除されます。

新しい曲を選ぶと…

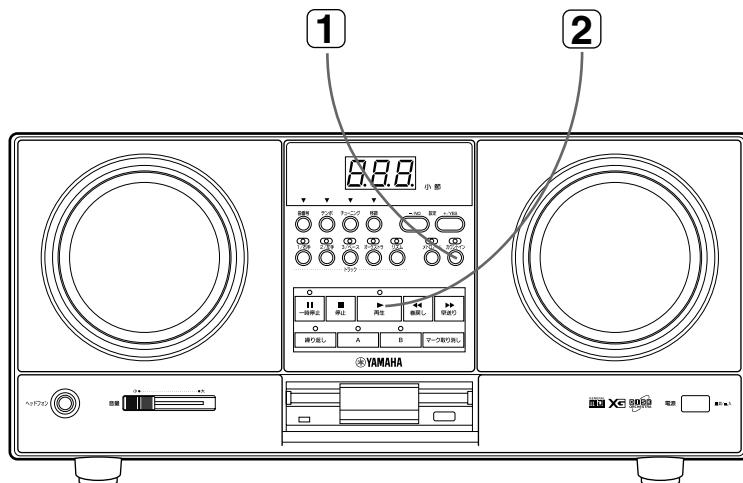
自動的に繰り返しは解除されます。

4 マークの解除

P32(「マークとジャンプ」の項目)の操作で解除します。

カウントイン

曲の始まりに1~2小節のカウントイン(メトロノーム)を入れて再生スタートすることができます。曲のタイミングをとって楽器を演奏し始めたいときに便利です。



ノート カウントインが使えないこともあります…

ディスクが差し込まれていないときや、フリーテンポの曲が選ばれているときは、カウントインは使えません。

1 カウントインのON/OFF

再生停止中、【カウントイン】を押すごとにカウントインのON/OFFが切り替わります。

⇒ ^{オン}ONで【カウントイン】のランプが点灯、^{オフ}OFFで消灯します。(再生中はカウントインがONでも【カウントイン】のランプは消灯します。)

② カウントインのON/OFFの操作

作ができないこともあります…
曲の再生中は、カウントインのON/OFFの操作はできません。

2 カウントインでスタート

カウントインをONにして再生をスタートすると、1~2小節のカウントイン(メトロノーム)が入って再生がスタートします。

⇒ カウントイン中ディスプレイに「-02」「-01」とスタート前的小節表示が現れます。

通常の操作で再生のスタート/ストップを行います。

新しい曲を選ぶと…
自動的にカウントインはOFFされます。

カウントインの音量は…
メトロノーム音量(P36)に連動します。

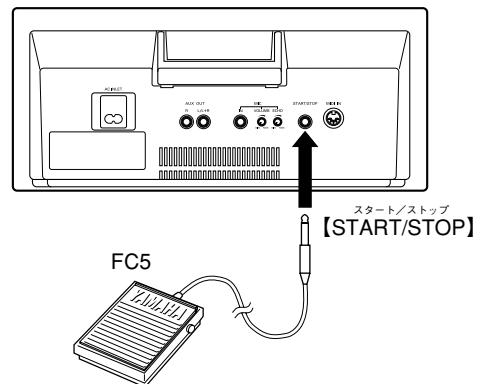
一時停止を解除したときや、
ジャンプと繰り返し再生の始まりでも…
カウントインをONにしていれば
カウントインが入ります。

フットスイッチでのスタート/ストップ

曲を再生しながら楽器を演奏する際、再生スタート/ストップのもう1つの便利な方法として、別売のフットスイッチ FC5(税別価格1,500円)を使う方法があります。

足でスタート/ストップの操作が行えますので、手でスタート/ストップの操作をする必要がなく、両手共楽器演奏に専念させることができます。

曲の再生と同時に演奏し始めたいときや、自分が先に演奏を始めて途中から再生をスタートさせたいときなどに便利です。



フットスイッチ FC5をリアパネルの【START/STOP】に接続します。

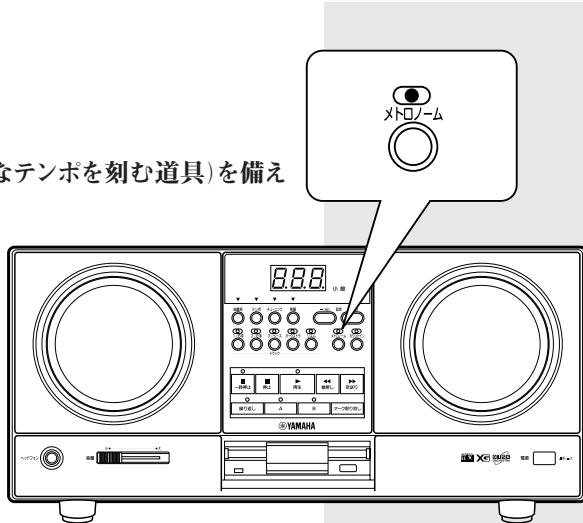
フットスイッチ FC5を踏んで再生のスタート/ストップを行います。(曲の停止中にFC5を踏むと再生がスタートし[パネルの【再生】と同じ働きです]、再生中にFC5を踏むと再生がストップします[パネルの【停止】と同じ働きです]。)

メトロノーム

MDP10Sは、メトロノーム(楽器の練習によく使われる、正確なテンポを刻む道具)を備えています。メトロノームとして単独で使うことも、曲を再生しながらタイミングをとる助けとして使うこともできます。

ノート メトロノームが使えないこともあります…

ディスクが差し込まれていてフリーテンポの曲が選ばれているときは(再生中でも停止中でも)、メトロノームは使えません。



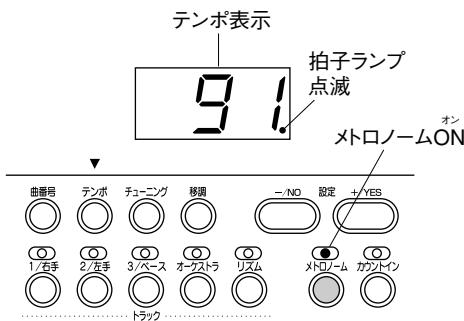
②。リズムトラックのない曲が選ばれているときも、メトロノームは使えません。

■メトロノームのON/OFF■

【メトロノーム】を押すごとに【メトロノーム】のON/OFFが切り替わります。

⇒ **オン** ONでメトロノームが鳴り出し(【メトロノーム】のランプが点灯)、拍子ランプがそのときのテンポに合わせて点滅します。
⇒ **オフ** OFFでメトロノームが止まります(【メトロノーム】のランプが消灯)。

- メトロノームをONにしたとき、自動的に【テンポ】のランプが点灯し、ディスプレイがテンポ表示に切り換わります。設定【-/NO】【+/YES】でテンポを調節してください(設定範囲:32~280)。



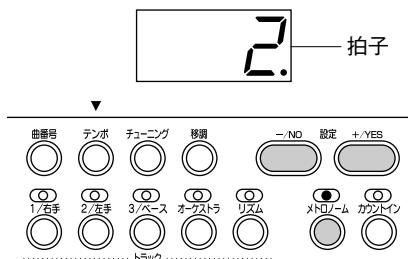
曲の再生中にメトロノームを オンにすると…

再生のタイミングに自動的に合
わせてメトロノームが鳴ります。
再生の停止でメトロノームも自
動的に止まります。

■ メトロノームの拍子の設定 ■

メトロノームの拍子も任意に設定することができます。設定した拍子の一拍めにアクセントが付きます。

【メトロノーム】を押したまま設定【-/NO】【+/YES】で設定します。



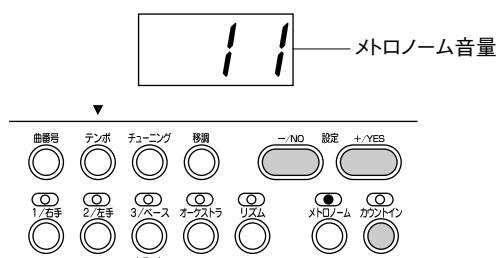
ノーマル
設定範囲:nor(無拍子、基本設定)、2、3、4、5、6

⇒ 設定操作中ディスプレイに拍子が表示されます。操作終了(【メトロノーム】を離す)で表示が元に戻ります。

■ メトロノーム音量の設定 ■

メトロノームの音量も任意に設定することができます。

【カウントイン】を押したまま設定【-/NO】【+/YES】で設定します。



設定範囲:1~20(10が基本設定)

⇒ 設定操作中ディスプレイにメトロノーム音量が表示されます。操作終了(【カウントイン】を離す)で表示が元に戻ります。

曲の再生中のメトロノームの 拍子は…

メトロノームの拍子がnor(無拍子)以外に設定されているときには、設定されている拍子に関わらず自動的に曲の拍子でメトロノームが鳴ります。(このとき拍子は変えられません。)
再生終了後は、自動的に設定されている拍子に戻ります。

カウントインやカウント音の 音量…

カウントイン(P34)や、ジャンプ(P32)や繰り返し再生(P33)のときのカウント音の音量も、メトロノーム音量に連動します。

メトロノーム音量の設定の 記憶…

メトロノーム音量の設定は電源を切っても記憶されています。(「設定の記憶について」P24)

②。曲の再生中、メトロノーム音 量が設定どおりにならない ことがあります…

曲を再生しながらメトロノームを鳴らす場合、曲データのリズムトラックにボリュームデータが入っていると、ここで設定された音量が無効になり、リズムトラックのボリュームデータが有効になる場合があります。
また、曲データのエフェクト等によって多少音質が変わる場合もあります。

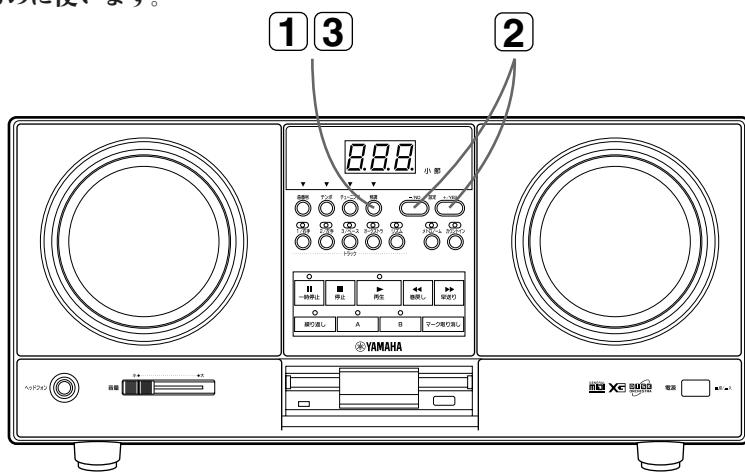
その他の機能

「移調」と「ディスクのフォーマット」について説明します。

移調

再生する曲を移調(キーを上げたり下げたりする)することができます。

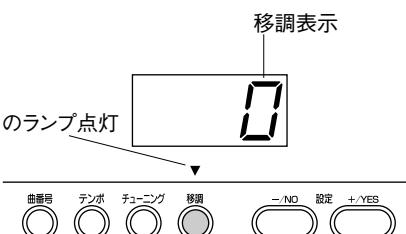
曲の調を変えたり、カラオケで歌うときに、再生する伴奏を自分の歌いやすいキーに変えたりするのに使います。



1 【移調】を押す

【移調】を押します。

⇒ 【移調】のランプが点灯し、【移調】のランプ点灯
ディスプレイが移調表示に
切り換わります。



ノート 移調表示の見方…

元の調に対しての移調量がプラスマイナスの数値(半音単位)で表示されます。(「-24~0~24」、元の調のままのとき「0」)

2 移調量を設定する

設定【-/NO】【+/YES】で設定します。

設定範囲:-24[-2オクターブ]~0~24[+2オクターブ](半音単位、0が基本設定)

⇒ ディスプレイに設定値が表示されます。

3 再度【移調】を押して終了

再度【移調】を押して終了します。

⇒ 【移調】のランプが消灯し、ディスプレイがテンポ表示(再生停止中)、または小節表示(再生中)に戻ります。

ディスクのフォーマット

MDP10Sでフロッピーディスクをフォーマットする操作を説明します。

パーソナルコンピューターなどで作成した曲データをMDP10Sで再生したい場合、その曲データをMDP10Sでフォーマットしたディスクにコピーして、MDP10Sで再生することができます。

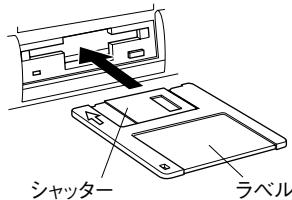
【ノート】 フォーマットを実行すると、そのディスクに記録されているデータはすべて消されますのでご注意ください。

1 【マーク取り消し】を押したままディスクを入れる

【マーク取り消し】を押したまま、^{フォーマット} フォーマットしたいディスクをディスクドライブに差し込みます。ディスプレイに「Format」(Formatの略)が表示されるまで【マーク取り消し】を押し続けます。

ディスクはラベルが貼ってある面(ラベルを貼る面)を上向き、シャッター側を奥にして、カチッと音がするまでていねいに差し込んでください。

⇒ ディスプレイに「Format」(Formatの略)が表示されたあと、約2秒後に「n/y」(no/yesの確認)の表示に変わります。



2 フォーマットを実行する

設定【+/YES】を押します。

(フォーマットを中止する場合は設定【-/NO】を押します。)

⇒ ディスプレイがフォーマット実行中を示す表示「F80」「F79」…に切り換わります。しばらくして「End」が表示されてフォーマットが完了し、「---」の表示(曲データがまったく入っていないディスクの曲番号表示)になります。

【ノート】 フォーマット実行中はフロッピーディスクを取り出さないでください。

フォーマット(初期化)とは…

フロッピーディスクは、パーソナルコンピューターなどのいろいろな機器で、いろいろなデータの収納場所として使われます。その際、フロッピーディスクのデータの収納方式にはいくつかの種類があるため、その機器で対応している収納方式をフロッピーディスクに最初に指定する作業が必要になります。(たとえば、白い紙に縦書きの線を入れるか横書きの線を入れるかというようなことです。)この作業を「フォーマット(初期化)」と言います。

フォーマットの種類…

MDP10Sでフォーマットすると、2DDディスクはMS-DOS(エムエス-ドス)720KB(キロバイト)、2HDディスクはMS-DOS(エムエス-ドス)1.44MB(メガバイト)にフォーマットされます。(「2DD」「2HD」はディスクの種類を示す言葉、「720KB」「1.44MB」はデータの記憶容量を示す言葉ですが、フォーマットの種類についてこのような言い方をします。)

②。ディスプレイに「Er1」が表示されたら…

ディスクのライトプロテクトタブが書き込み禁止の位置になっていることを示します。そのディスクを抜き、ライトプロテクトタブを書き込み可の位置にしてから(P6)フォーマット操作をし直してください。

③。ディスプレイに「Er2」が表示されたら…

「小学校音楽教科書伴奏集(SEQ/DOCディスク)」「子どものうた」(P45)などのディスクをフォーマットしようとしたときに表示されます。これらのディスクはフォーマットできません。そのディスクは抜き、別のディスクを用意してフォーマットし直してください。

パソコンコンピューターなどで作成した曲データをMDP10Sで再生する方法

パソコンコンピューターなどで作成した曲データをMDP10Sで再生するには、2つの方法があります。

- ① **MIDIインターフェース機器を介してパソコンコンピューターとMDP10Sの【MIDI IN】をMIDIケーブルで接続し、パソコンコンピューターのシーケンスソフトで再生する方法**
- ② **曲データをMDP10Sでフォーマットしたディスクに、パソコンコンピューター上でコピーして、そのディスクをMDP10Sで再生する方法**

〔ノート〕コピーに使用するディスクについて…

コピーに使用するディスクは、MDP10Sでフォーマットしたディスクでなくても、「MS-DOS(エムエス-ドス)720KB(キロバイト)フォーマットの2DDディスク」か「MS-DOS(エムエス-ドス)1.44MB(メガバイト)フォーマットの2HDディスク」であれば問題ありません。

〔ノート〕Macintoshのパソコンコンピューターでのご注意…

Macintosh上で曲データを、MDP10Sでフォーマットしたディスク(または上記フォーマットのディスク)にコピーする場合、「Apple File Exchange」や「Macintosh PC Exchange」などのユーティリティソフトウェアを使って、ディスクを認識できるようにする操作が必要になる場合もあります。

〔ノート〕「ディスクのフォーマット」のほかに、曲データの「シーケンスフォーマット」と「音色配列フォーマット」を確認してください…

MDP10Sで再生できる「シーケンスフォーマット」と「音色配列フォーマット」は下記のとおりです。下記以外の曲データは再生できなかったり、正しく再生できなかったりします。

シーケンスフォーマット: **SMF**(フォーマット0、フォーマット1)
ESEQ

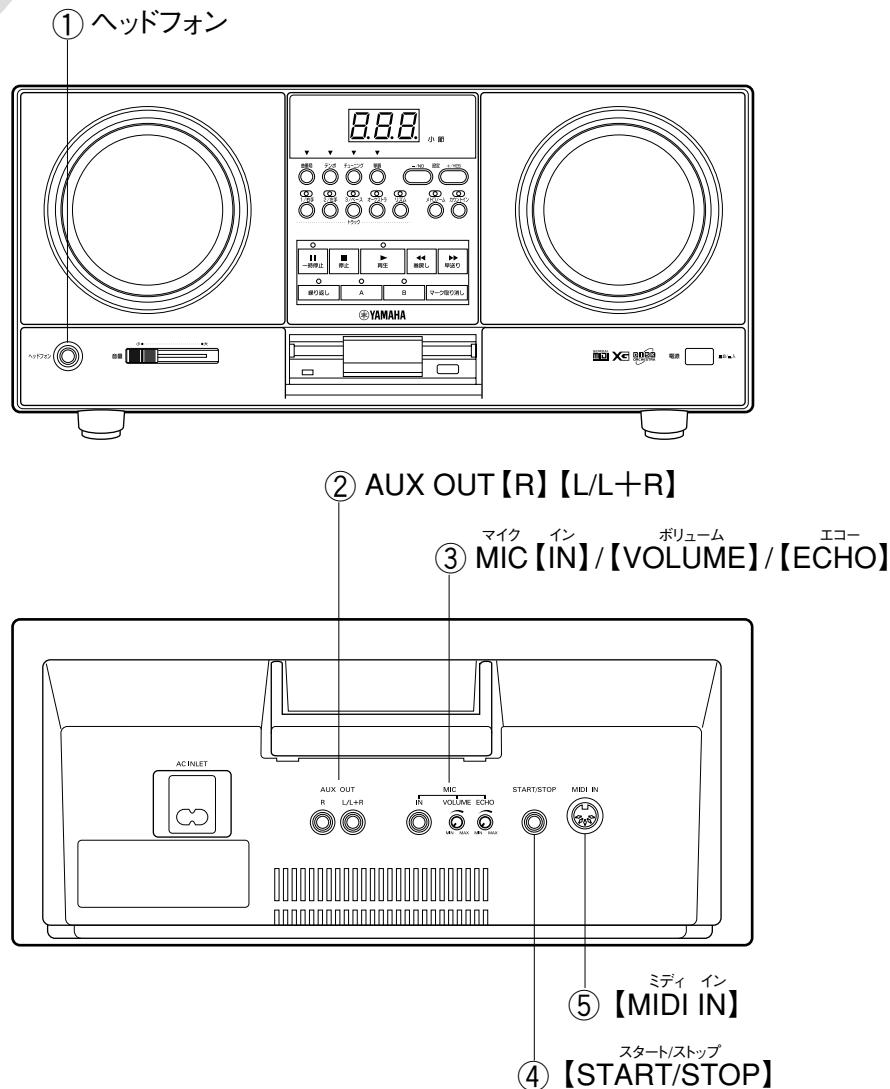
音色配列フォーマット: **GM**システムレベル1
エックスジー
XG
ディーオーシー
DOC

上記の各フォーマットについての説明は、P44の「MDP10Sで再生できる曲データの各種フォーマット」をご覧ください。

MS-DOSは、米国マイクロソフト社の登録商標です。

Macintosh、Apple File Exchange、Macintosh PC Exchangeは、米国アップルコンピュータ社の登録商標および商標です。

他の機器と接続する端子



① 【ヘッドフォン】

ヘッドフォン(別売)を接続する端子です。

ヘッドフォンを接続するとMDP10Sのスピーカーからは音が出ません。

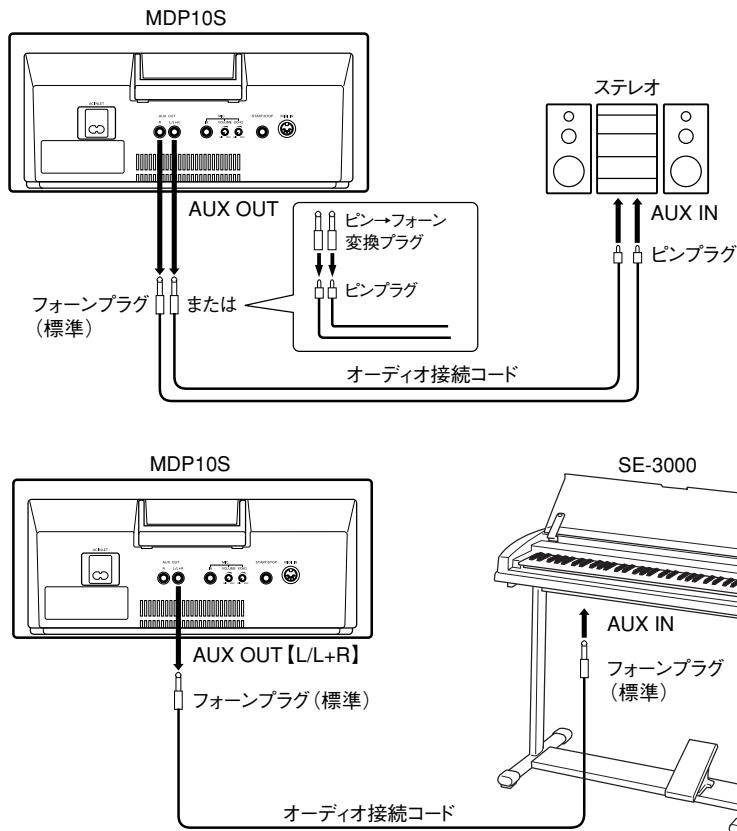
推薦ヘッドフォン……
YAMAHAヘッドフォンYHE-90Sなど

② AUX OUT[R][L/L+R]

MDP10Sをステレオなどに接続してステレオから音を出したり、MDP10Sで曲を再生しながら学校用オルガンなどのスピーカー付きの電子楽器で演奏する場合などに、その楽器に接続して、楽器側から演奏音といっしょに曲の再生音も出したりできます。

【ノート】他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。電源を入れるときは入力機器(MDP10S)→出力機器の順に、電源を切るときは出力機器→入力機器(MDP10S)の順に、行ってください。

オーディオ接続コードを使って図のように接続します。



③ MIC【IN】/【VOLUME】/【ECHO】

マイク(別売)を接続してカラオケを楽しむことができます。マイクの音はMDP10Sのスピーカーから出ます。

- | | |
|--------------------|---|
| MIC【IN】 | マイクをMIC.【IN】(標準フォーン端子)に接続します。 |
| MIC【VOLUME】 | マイクの音量を調節します。 |
| MIC【ECHO】 | マイクのエコーの深さを調節します。
この設定は、曲の再生音には影響しません。 |

④ 【START/STOP】

別売のフットスイッチ FC5を接続する端子です。

FC5の使い方については、P35の「フットスイッチでのスタート/ストップ」の項目をご覧ください。

⑤ 【MIDI IN】

MIDIケーブルを使って、外部MIDI機器のMIDI OUT端子などからMDP10Sの【MIDI IN】に接続し、外部MIDI機器から送信したMIDIデータをMDP10Sで受信して、MDP10Sから音を出すことができます。

ノート MIDI受信の条件…

ディスクが差込まれているときとチューニング中は、MIDIデータを受信しません。

ステレオに接続したときは、MDP10Sの【音量】は中程の位置にして、ステレオ側で音量を調節してください。
入力音のボリューム調節のないオルガンなどの電子楽器に接続したときは、MDP10Sの【音量】で音量を調節してください。

AUX OUT【R】【L/L+R】を使ってステレオや電子楽器に接続している場合でも、MDP10S本体からも音が出ます。本体からの音を消したい場合は、【ヘッドフォン】にヘッドフォンなどのプラグを差し込んでください。

SE-3000などモノラル入力の電子楽器に接続するときは、AUX OUT【L/L+R】をご使用ください。

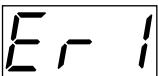
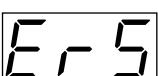
オーディオ接続コード及び変換プラグは抵抗のないものをお使いください。

MDP10Sの音色配列について…

MDP10Sは「GMシステムレベル1」「XG」「DOC」の音色配列に対応していますが、パネル操作で音色配列を切り換えることはできません。
MIDIデータ中の「GM ON」「XG ON」「DOC ON」のメッセージにより切り換わります。
MIDIデータ中にこれらのメッセージがない場合は音色配列は切り換わりませんのでご注意ください。

エラーメッセージ一覧

操作中、ディスプレイにエラーメッセージが表示されることがあります。各メッセージの意味と対処法を説明します。

表示	意味と対処法
	フォーマット操作で、差し込んだディスクのライトプロテクトタブが、書き込み禁止の位置になっていた場合に表示されます。そのディスクを抜き、ライトプロテクトタブを書き込み可の位置にしてから(P6)フォーマット操作をしてください。
	「小学校音楽教科書伴奏集(ESEQ/DOCディスク)」「子どものうた」(P45)などのディスクをフォーマットしようとしたときに表示されます。これらのディスクはフォーマットできません。そのディスクは抜き、別のディスクを用意してフォーマットし直してください。 <small>イーシーク ディーオーシー</small>
	ディスクからデータを読み込み中に、データ上のエラーが発生したときに表示されます。もう一度操作し直してください。それでもエラーが起こる場合は他のディスクでもエラーが起こるかどうか確認してください。 他のディスクでもエラーが起こる場合は、MDP10Sのディスクドライブユニットの故障が考えられます。その場合はお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に修理をご依頼ください。 他のディスクではエラーが起こらない場合は、エラーが起こるディスクが壊れていることが考えられます。
	フォーマットの実行中にディスクが抜かれてしまった場合に表示されます。この場合、すでにそのディスクのデータは壊れています。またフォーマットもされていないままになります。もう1度フォーマットし直してください。
	MDP10Sのディスクドライブのヘッドが汚れてきていることを示しています。市販の「乾式ヘッドクリーニングディスク」を使用してディスクヘッドを清掃してください。(P6)
	<small>ミディ イン</small> 【MIDI IN】からのMIDI入力データの量が多すぎて正しく再生できない場合に表示されます。MIDI入力データの量を減らしてください。
	曲データがまったく入っていないディスクが差し込まれたとき、または差し込まれていてディスプレイが【曲番号】表示のときに、曲番号の代わりにこのメッセージが表示されます。 このディスクは抜き、曲データのあるディスクを用意してください。
	未フォーマットのディスクやMDP10Sが対応していないフォーマットのディスクが差し込まれたとき、または差し込まれていてディスプレイが【曲番号】表示のときに、曲番号の代わりにこのメッセージが表示されます。 このディスクは使えませんので抜いてください。MDP10Sでフォーマットする場合は改めてフォーマット操作(P38)を行ってください。

故障かな? と思ったら

現象	考えられる原因	解答/解決法
MDP10Sの電源が入らない。	電源プラグがコンセントに差し込まれていません(本体側と家庭側)。	電源プラグを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください。(P7)
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	【音量】が下がっています。	【音量】を上げてください。(P8)
	ヘッドフォンが接続されています。	ヘッドフォンを抜いてください。(P8)
	すべてのトラックが再生OFFになっています。	データが入っているトラック(【1/右手】 【2/左手】 【3/ベース】 【オーケストラ】 【リズム】の1つ~すべて)の再生をONにしてください。(P31)
ボタンを押しても効かない。	再生準備中ランプ(ディスプレイの左下端のランプ)の点灯中にボタンが押されました。	このときはMDP10Sが再生準備中で、次の操作スイッチを押しても効かないことがあります。(P24) このランプが消灯してから次の操作をしてください。
	その機能が使えない状態のときにボタンが押されました。	使用状態によって使えない機能があります。リファレンス編各項目の(ノート)か欄外コラムの(?)マークの説明をご覧ください。
メトロノームやカウントイン、カウント音が聞こえない。	メトロノーム音量の設定が下がっています。	メトロノーム音量を上げてください。(P36)
曲番号がとびとびにしか選べない。	そのディスクの曲データのある番号がとびとびになっています。	異常ではありません。曲データのない番号はとばされて表示されます。(曲データのある番号だけ表示されます。)(P26)

(ノート)「エラーメッセージ一覧」(P42)もご参照ください。

付 錄

ディスクソフトのご紹介や、必要に応じてご利用いただける資料を掲載しています。

MDP10Sで再生できるディスクソフトについて

MDP10Sで再生できる ディスクソフトの各種フォーマット

MDP10Sは各種の代表的なフォーマットの曲データを再生することができますが、ここで、MDP10Sで再生できる曲データの各種フォーマット（「ディスクのフォーマット」、「シーケンスフォーマット」、「音色配列フォーマット」）の一覧を掲載します。

市販のいろいろな種類のディスクソフトや、電子楽器などで録音した曲データ、パーソナルコンピューターなどで作成した曲データについても、下記のフォーマット（「ディスクのフォーマット」、「シーケンスフォーマット」、「音色配列フォーマット」）それについて、掲載されている中の1つ）に該当する場合にMDP10Sで再生できます。

下記のフォーマットに該当しないディスクソフトや曲データは、再生できなかったり、正しく再生できなかったりします。

ディスクのフォーマット

エムエスドス キロバイト
MS-DOS 720KB フォーマットの2DDディスク
エムエスドス メガバイト
MS-DOS 1.44MB フォーマットの2HDディスク

ノート ディスクのフォーマットとは…

ディスクのデータ収納方式の種類です。

シーケンスフォーマット

エスエムエフ ミディ
SMF(スタンダードMIDIファイル) フォーマット0、フォーマット1
イーシーク
ESEQ

音色配列フォーマット

ジーイム
GM システムレベル1
エックスジー
XG
ディーオーシー
DOC

これらの各シーケンスフォーマットと音色配列フォーマットについて簡単に説明します。

■シーケンスフォーマット

曲データを記録する書式のことをシーケンスフォーマットと言います。

エスエムエフ **SMF(スタンダードMIDIファイル)** ミディ

市販の多くのディスクソフトで採用されている代表的なシーケンスフォーマットの1つです。

SMFには「フォーマット0(ゼロ)」と「フォーマット1」の2種類ありますが、MDP10Sは、両方に対応しています。

イーシーク **ESEQ**

ヤマハの多くのディスクソフトで採用されている代表的なシーケンスフォーマットの1つです。

■音色配列フォーマット

音色を指定する番号のつけ方の種類を音色配列フォーマットと言います。

ジーイム **GM** システムレベル1

市販の多くのディスクソフトが準拠している代表的な音色配列フォーマットです。

エックスジー **XG**

「GMシステムレベル1」をさらに拡張し、豊かな表現力とデータの継続性を可能にしたヤマハの音源フォーマットの音色配列です。

ディーオーシー **DOC**

「小学校音楽教科書伴奏集(ESEQ/DOCディスク)」「子どものうた」などが準拠している、ヤマハの音色配列です。

MDP10Sで再生できる主なヤマハ別売ディスクソフトのご紹介

※以下に紹介するディスクソフトは、2000年12月現在のものです。

「小学校音楽教科書伴奏集」

小学校音楽教科書の指導用伴奏譜に基づき、各学年ごとに、歌唱曲から器楽曲までの全掲載曲を収録した学校用向けソフトです。様々な楽器で再生できるよう「SMF/XG(GM)ディスク」「ESEQ/DOCディスク」の2枚組となっております。

SMF/XG(GM)ディスク

ディスクのフォーマット : MS-DOS 1.44MBフォーマットの

2HDディスク

シーケンスフォーマット : SMFフォーマット0

音色配列フォーマット : XG音色配列

ESEQ/DOCディスク

ディスクのフォーマット : MS-DOS 720KBフォーマットの

2DDディスク

シーケンスフォーマット : ESEQ

音色配列 : DOC

「子どものうた」

小学校や幼稚園などでよく使われる人気の曲を、多彩な音色とリズムを使い収録したソフトです。

ディスクのフォーマット : MS-DOS 720KBフォーマットの

2DDディスク

シーケンスフォーマット : ESEQ

音色配列 : DOC

「XGソングデータライブラリー」

ヤマハの音源フォーマット「XG」に準拠した曲データのディスクソフトです。多彩なジャンルの曲データが豊富に取り揃えられています。

ディスクのフォーマット : MS-DOS 720KBフォーマットの

2DDディスク

シーケンスフォーマット : SMFフォーマット0

音色配列フォーマット : XG音色配列

その他MDP10Sで再生できる主なヤマハ別売ディスクソフト

伴奏くんレパートリー集「楽器でうたおう」

「ピアノソフト」

「ピアノソフトプラス」

「ピアノアソシエ」ディスクソフト

「ピアノ・ア・ラ・モード」

Mumaについて

Mumaとは、ヤマハ独自の音楽データ店頭販売システムです。店頭に設置されているMuma専用コンピューターで、音楽データをアルバム単位または自由選曲方式でお選びいただき、専用フロッピーディスクに収録してご購入いただけます。上記のソフトの多くを含む豊富な音楽データが取り揃えられています。

ノート 上記およびその他のディスクソフトについて詳しくは、ソフトカタログをご覧ください。

ノート ヤマハのディスクソフトのほかにも、上記フォーマットに該当する市販の多くのディスクソフトが、ご利用いただけます。

YAMAHA [Music Data Player]
Model MDP10S MIDI Implementation Chart

Date: 1-DEC-2000
Version : 1.0

Function ...	Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Default	x	1 - 16	
Channel Changed	x	1 - 16	
Mode Default	x	3	
Mode Messages	x	3, 4 (m = 1) *2	
Mode Altered	*****	x	
Note Number : True voice	x *****	0 - 127 0 - 127	
Velocity Note ON	x	o 9nH, v=1-127	
Note OFF	x	x	
After Touch Ch's	x	o	*1
Pitch Bender	x	o 0-24 semi	*1
0,32	x	o	*1
1,5,7,10,11	x	o	*1
6,38	x	o	Data Entry
64-67	x	o	*1
Control Change	71-74	x	Sound Controller
	84	x	Portamento Cntrl
	91,93,94	x	Effect Depth
	96-97	x	*1 RPN Inc,Dec
	98-99	x	*1 NRPN LSB,MSB
	100-101	x	*1 RPN LSB,MSB
	120	x	All Sound Off
	121	x	Reset All Cntrls
Prog Change : True #	x *****	o 0 - 127	
System Exclusive	x	o	
System : Song Pos.	x	x	
: Song Sel.	x	x	
Common : Tune	x	x	
System : Clock	x	x	
Real Time : Commands	x	x	
Aux : Local ON/OFF	x	x	
: All Notes OFF	x	o(123-127)	
Mes- : Active Sense	x	o	
sages : Reset	x	x	
Notes: *1 ; receive if switch is on.			
*2 ; m is always treated as "1" regardless of its value.			
Mode 1 : OMNI ON, POLY Mode 2 : OMNI ON, MONO o : Yes			
Mode 3 : OMNI OFF, POLY Mode 4 : OMNI OFF, MONO x : No			

仕様

音源 AWM音源759音色(737音色+22ドラムセット)
(最大同時発音数 32)

再生対応フォーマット

ディスクのフォーマット
MS-DOS 720KBフォーマットの2DDディスク
MS-DOS 1.44MBフォーマットの2HDディスク

シーケンスフォーマット
SMF(スタンダードMIDIファイル)フォーマット0、
フォーマット1

音色配列フォーマット
GMシステムレベル1
XG
DOC

操作子
【音量】
【曲番号】
【テンポ】
【チューニング】
【移調】
設定【-/NO】【+/YES】
【1/右手】
【2/左手】
【3/ベース】
【オーケストラ】
【リズム】
【メトロノーム】
【カウントイン】
【一時停止】
【停止】
【再生】
【巻戻し】
【早送り】
【繰り返し】
【A】
【B】
【マーク取り消し】
【電源】

ディスプレイ LEDディスプレイ(7セグメント3桁)

ディスクドライブ

3.5インチ マイクロ フロッピー ディスク ドライブ
(2DD、2HD対応)

付属端子

【ヘッドフォン】
【AC INLET】
AUX OUT【R】【L/L+R】(出力インピーダンス 600Ω)
MIC【IN】(VOLUME、ECHO調節付き)
【START/STOP】
【MIDI IN】

メインアンプ 5W+5W(EIAJ)

スピーカー 10cm×2

定格電源 AC100V、50/60Hz

消費電力 30W

寸法(間口×奥行×高さ)

391mm×203mm×183mm

質量 4.7kg

付属品
電源コード
MDP10Sデモンストレーションディスク
保証書
取扱説明書(本書)

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

別売品のご紹介

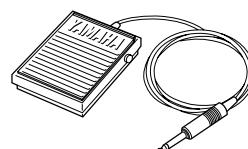
ヘッドフォン YHE-90S

税別価格6,500円



フットスイッチ FC5

税別価格1,500円



付

録

索引

- MDP10S取扱説明書の全体の流れを見たい場合は、P5「目次」をご覧ください。
- ボタンなどの操作子の名前から説明を検索したい場合は、P20「各部の名前」をご利用ください。
- そのほかのキーワードから説明を検索したい場合に、この「索引」をご利用ください。
- 「*」印はそのページの"欄外のコラム"に説明があることを示しています。

ABC順

	ページ
➡の意味	4
➡の意味	4
オール ALL	26
データオーディー DOC	44
イーサーネット ESEQ	44
FC5	35
ジーエム GM	44
Hz(ヘルツ)	29*
MDP10Sデモンストレーションディスク 2	2
MDP10Sデモンストレーションディスクの曲目リスト 9	9
ミューマ Muma	45
ランダム random	26
エクスエフ SMF	44
エックスギー XG	44
XG ソングデータライブラリー	45

あいうえお順

	ページ
アンサンブル演奏	12, 31
イジектボタン	6
エラーメッセージ	42
音色配列フォーマット	44
音量調節	8
カウント音	32*, 33*
片手練習	14, 31
カラオケ	18
乾式ヘッドクリーニングディスク	6
記憶	24
基準音	29
基準音の音程を変更	30
基本設定	24
繰り返し再生	16, 33
繰り返し再生(1曲全体)	26*
繰り返し練習	16, 33
工場出荷時の設定	24
「子どものうた」	45
再生	10, 25
再生準備中ランプ	24
シーケンスフォーマット	44
ジャンプ	32
仕様	47
「小学校音楽教科書伴奏集」	45
スタンダードMIDIファイル	44
設定の記憶	24
端子	40
ディスクソフト	44
ディスクドライブユニット	6
ディスクのフォーマット	38, 44
ディスプレイ	22
ディスプレイの切り換え	23
ディスプレイの見方	22
デモンストレーションディスク	2
デモンストレーションディスクの曲目リスト	9
電源	7
電源コード	7
トラック	31

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

●保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

●保証期間

お買い上げ日から1年間です。

●保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

右記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

●持込み修理のお願い

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ本機をご持参ください。

●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、フロッピーディスクドライブなど

ヤマハ電気音響製品サービス拠点（修理受付および修理品お持込み窓口）

◆修理のご依頼/修理についてのご相談窓口

ヤマハ電気音響製品修理受付センター

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～19:00、土曜日 9:00～17:30
(祝祭日および弊社休業日を除く)

ナビダイヤル
(全国共通番号)



0570-012-808

※一般電話・公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。

FAX (053)463-1127

◆修理品お持込み窓口

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:45 (祝祭日および弊社休業日を除く)

* お電話は、電気音響製品修理受付センターでお受けします。

北海道サービスステーション 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内

FAX (011)512-6109

首都圏サービスセンター 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F

FAX (03)5762-2125

浜松サービスステーション 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内

FAX (053)462-9244

名古屋サービスセンター 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2 ヤマハ(株)名古屋倉庫3F

FAX (052)652-0043

大阪サービスセンター 〒564-0052 吹田市広芝町10-28 オーク江坂ビルディング2F

FAX (06)6330-5535

九州サービスステーション 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4

FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

ヤマハ株式会社

管弦打学校営業部

〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11

☎ 03-5488-1686

※住所および電話番号は変更になる場合があります。

学校音楽のホームページ「YAMAHA MUSIC PAL」
<http://www.yamaha.co.jp/edu/>



この取扱説明書は
エコパルプ(ECF:無塩素系漂白パルプ)
を使用しています。



この取扱説明書は
大豆油インクで印刷しています。

この取扱説明書は、再生紙を使用しています。

M.D.G., PA·DMI Division ©Yamaha Corporation 2000
V673720 608APAP1.3-05B0